



日本大学藤沢高等学校

NIHON UNIVERSITY Fujisawa Senior High School

— 第3学年 —

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	現代文B	4	高校3年1組～6組 (文系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『現代文B 改訂版』第一学習社	『改訂版 プログレス現代文総演習 発展編』(いいずな書店), 『改訂版 読み・解き・覚える 日本文学史必携』(第一学習社), 『大学入試に出た核心漢字2500』(尚文出版), 『生きる現代文キーワード増補改訂版』(駿台文庫)

1. 学習の目標

漢字や語句の意味, 知識面の充実を図り, 論理的な読み方を身につける。知識の充実を図ることで背景となる思想を理解する。読解力を養い, 批判的思考力を身につけ, 入試に対応できる力を身につける。

2. 評価の観点

①関心・意欲・態度	②話すこと・聞くこと	③書くこと	④読むこと	⑤知識・理解
授業に積極的に参加し, 自ら考える姿勢をとることができている。	聞くことにより理解し, 理解に対する意見を述べることができている。	情報を正確に取捨選択し, まとめ, 適切な日本語表現で伝えることができている。	論理的に読むことができ, 作者の意図を理解することができている。	豊かで正確な語彙を身につけ, 自ら使うことができている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	基礎学力到達度テスト対策 問題演習	さまざまな文章を読み, 論理的な読み方を身につける。評論で扱われるテーマの背景を理解し, 広い教養を身につける。 評論用語を中心に語彙力の充実を図る。 選択肢の選び方を身につける。	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	5	教科書 評論「言語が見せる世界」 問題演習	言語を通して世界を見ろという考え方を身につける。筆者の主張と一般論の両方を批判的に考える力を身につける。 共通テストレベルの問題に対応できるようにする。	
	6	教科書 評論「コスモポリタニズムの可能性」 文学史	二つの空間概念の対比からコスモポリタニズムの可能性について自ら考え, 意見をまとめる。 近現代の文学について知る。	
	7	問題演習	共通テストレベルの問題に対応できるようにする。	
2	9	基礎学力到達度テスト対策	さまざまな文章を読み, 論理的な読み方を身につける。評論で扱われるテーマの背景を理解し, 広い教養を身につける。	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	10	入試対策	小説の読み方を理解し, 登場人物の心情を理解する。場面の展開や背景を理解する。小説全体のテーマを理解し, 作者の意図を理解する。	
	11	入試対策	選択肢の選び方を身につける。 希望大学・私学難関レベルの問題に対応できるようにする。	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	現代文B	2	高校3学年7組～11組 (理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『現代文B 改訂版』第一学習社	『改訂版 プログレス現代文総演習 発展編』(いいずな書店), 『改訂版 読み・解き・覚える 日本文学史必携』(第一学習社), 『大学入試に出た核心漢字2500』(尚文出版), 『生きる現代文キーワード増補改訂版』(駿台文庫)

1. 学習の目標

漢字や語句の意味, 知識面の充実を図り, 論理的な読み方を身につける。知識の充実を図ることで背景となる思想を理解する。読解力を養い, 批判的思考力を身につけ, 入試に対応できる力を身につける。

2. 評価の観点

①関心・意欲・態度	②話すこと・聞くこと	③書くこと	④読むこと	⑤知識・理解
授業に積極的に参加し, 自ら考える姿勢をとることができる。	聞くことにより理解し, 理解に対する意見を述べることができる。	情報を正確に取捨選択し, まとめ, 適切な日本語表現で伝えることができる。	論理的に読むことができ, 作者の意図を理解することができる。	豊かで正確な語彙を理解し, 自ら使うことができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	基礎学力到達度テスト対策 問題演習	さまざまな文章を読み, 論理的な読み方を身につける。評論で扱われるテーマの背景を理解し, 広い教養を身につける。 評論用語を中心に語彙力の充実を図る。 選択肢の選び方を身につける。	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	5	教科書 評論「言語が見せる世界」 問題演習	言語を通して世界を見ろという考え方を身につける。 共通テストレベルの問題に対応できるようにする。	
	6	教科書 評論「コスモポリタニズムの可能性」 文学史	二つの空間概念の対比からコスモポリタニズムの可能性について自ら考え, 意見をまとめる。 近現代の文学について知る。	
	7	問題演習	共通テストレベルの問題に対応できるようにする。	
2	9	基礎学力到達度テスト対策	さまざまな文章を読み, 論理的な読み方を身につける。評論で扱われるテーマの背景を理解し, 広い教養を身につける。	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	10	基礎学力到達度テスト対策	小説の読み方を理解し, 登場人物の心情を理解する。場面の展開や背景を理解する。小説全体のテーマを理解し, 作者の意図を理解する。	
	11	基礎学力到達度テスト対策	選択肢の選び方を身につける。 希望大学・私学難関レベルの問題に対応できる。	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	現代文B	3	高校3年14組 (文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『現代文B 改訂版』第一学習社	『改訂版 プログレス現代文総演習 発展編』(いいずな書店), 『改訂版 読み・解き・覚える 日本文学史必携』(第一学習社), 『大学入試に出た核心漢字2500』(尚文出版), 『生きる現代文キーワード増補改訂版』(駿台文庫)

1. 学習の目標

漢字や語句の意味, 知識面の充実を図り, 論理的な読み方を身につける。知識の充実を図ることで背景となる思想を理解する。読解力を養い, 批判的思考力を身につけ, 入試に対応できる力を身につける。

2. 評価の観点

①関心・意欲・態度	②話すこと・聞くこと	③書くこと	④読むこと	⑤知識・理解
授業に積極的に参加し, 自ら考える姿勢をとることができている。	聞くことにより理解し, 理解に対する意見を述べる。ことができている。	情報を正確に取捨選択し, まとめ, 適切な日本語表現で伝えることができている。	論理的に読むことができ, 作者の意図を理解することができている。	豊かで正確な語彙を理解し, 自ら使うことができている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	基礎学力到達度テスト対策 問題演習	さまざまな文章を読み, 論理的な読み方を身につける。評論で扱われるテーマの背景を理解し, 広い教養を身につける。 評論用語を中心に語彙力の充実を図る。 選択肢の選び方を身につける。	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	5	教科書 評論「言語が見せる世界」 問題演習	言語を通して世界を見ろという考え方を身につける。 共通テストレベルの問題に対応できるようにする。	
	6	教科書 評論「コスモポリタニズムの可能性」 文学史	二つの空間概念の対比からコスモポリタニズムの可能性について自ら考え, 意見をまとめる。 近現代の文学について知る。	
	7	問題演習	共通テストレベルの問題に対応できるようにする。	
2	9	基礎学力到達度テスト対策	さまざまな文章を読み, 論理的な読み方を身につける。評論で扱われるテーマの背景を理解し, 広い教養を身につける。	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	10	基礎学力到達度テスト対策	小説の読み方を理解し, 登場人物の心情を理解する。場面の展開や背景を理解する。小説全体のテーマを理解し, 作者の意図を理解する。	
	11	基礎学力到達度テスト対策	選択肢の選び方を身につける。 希望大学・私学難関レベルの問題に対応できる。	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	古典B	4	高校3年1～6組 (文系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『古典B 改訂版』(大修館書店)	『新修 古典文法 二訂版』(京都書房), 『必携 新明説漢文』(尚文出版), 『古文単語301』(尚文出版), 『改訂版 読み・書き・覚える 日本文学史必携』(第一学習社), 『みるみる実力アップ古典総合2』(第一学習社)

1. 学習の目標

古典としての古文を通して、ものの見方・感じ方・考え方を広くし、古典に親しむことによって教養を身に付け、人生を豊かにする態度を身につける。また古典としての漢文を学ぶことで、日本文化が漢詩・漢文から受けた影響を知り、双方をより深く理解する。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 話すこと・聞くこと	3. 書くこと	4. 読むこと	5. 知識・理解
自ら進んで授業に取り組み、課題等をきちんと提出している。古典を通して人間や社会に対する考えを深めようとしている。	自分の考えをまとめて相手に分かるように伝えようとしている。また、人の意見を聞き、理解しようとしている。	課題に積極的に取り組み、自ら調べたことや考えたことを文章にまとめようとしている。	教材をきちんと読んで的確な読解ができていいる。また、古文・漢文の文体を味わい、音読ができていいる。	語句の意味・用法、文法、作品の背景となる事柄などについて、的確な知識を身に付け、古典作品の読解に活かしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 基礎学力到達度テスト対策 『源氏物語』須磨	古典の学習目標、学習方法、ノートのとり方など。 基礎学力到達度テスト対策として、過去問題を解き問題に慣れる。 本文の内容を正しく理解する。 登場人物の特徴を読み取る。	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	5	漢詩・漢文 石壕吏 春夜宴桃李園序 『大鏡』 三船の才	漢詩・漢文の決まりを確認しながら、正しく読む。 句法を確認する。 本文の内容を正しく理解する。 本文の内容を正しく理解する。 登場人物の人間関係について理解する。	
	6	みるみる実力アップ古典総合2 問題集 『枕草子』 頭の弁の、職に参りたまひて 漢文 荊軻	古文・漢文の問題に慣れる。 本文の内容を正しく理解する。 登場人物の人間関係について理解する。 漢文を正確に音読・現代語訳できるようにする。 句法を確認する。	
	7	みるみる実力アップ古典総合2 問題集	古文・漢文の問題に慣れる。	

2	9	基礎学力到達度テスト対策 『みるみる実力アップ古典総合2』問題演習	基礎学力到達度テスト対策として、過去問題を解き問題に慣れる。 古文・漢文の問題に慣れる。	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	10	『蜻蛉日記』 町の小路の女 漢文 兼相愛 漢文 『桃花源記』	『蜻蛉日記』の文学的位置を確認する。 本文の内容を理解し、登場人物の心情、和歌に込められた思いを理解する。 中国の思想について学ぶ。 墨子の愛について理解する。 漢文を正確に音読・現代語訳できるようにする。 句法を確認する。 本文の内容を正しく理解する。	
	11	問題集	古文・漢文の問題に慣れる。	

※上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	古典B	4	高校3年12組 (文系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『古典B 改訂版』(大修館書店)	『新修 古典文法 二訂版』(京都書房), 『必携 新明説漢文』(尚文出版), 『古文単語301』(尚文出版), 『改訂版 読み・書き・覚える 日本文学史必携』(第一学習社), 『進研模試過去問題集 国語』(ラーンズ), 『共通テスト分野別対策ベーシックマスター国語 古文・漢文』(Z会)

1. 学習の目標

古典としての古文を通して、ものの見方・感じ方・考え方を広くし、古典に親しむことによって教養を身に付け、人生を豊かにする態度を身につける。また古典としての漢文を学ぶことで、日本文化が漢詩・漢文から受けた影響を知り、双方をより深く理解する。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 話すこと・聞くこと	3. 書くこと	4. 読むこと	5. 知識・理解
自ら進んで古典を学習しようとする意欲や態度をもっている。 様々な古典を読むことを通して、人間や社会に対する考えを深め、自らのものの見方・考え方を広げようとしている。	授業に積極的に参加し、考えをまとめ、相手に分かるように伝えようとしている。 人の意見を聞き、関心を持って理解しようとしている。	課題に積極的に取り組み、自ら調べたことを文章にしてまとめている。 古典に必要な語彙力や文法などを身につけるために、ノートにわかりやすくまとめている。	古文・漢文の調子を味わいながら聞き、音読が適切にできている。	古典を読み、疑問や関心を持ったことについて、さらに知識を深めるべく、発展的な学習の努力をしている。 語句の意味、用法を的確に理解し、古典独特の美しい表現を味わおうとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 基礎学力到達度テスト対策	古典の学習目標、学習方法、ノートのとり方など。 基礎学力到達度テスト対策として、過去問題を解き問題に慣れる。	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	5	『源氏物語』須磨 漢詩・漢文 石壕吏	本文の内容を理解する。 登場人物の特徴を読み取る。 漢詩・漢文の決まりを確認しながら、正しく読む。 句法を確認する。 本文の内容を正しく理解する。	
	6	問題演習 大学入試問題演習 『枕草子』 頭の弁の、職に参りたまひて	古文・漢文の問題に慣れる。 過去問題により試験に慣れる。 本文の内容を理解する。 登場人物の人間関係について理解する。	
	7	漢文 荊軻 問題演習 大学入試問題演習	漢文を正確に音読・現代語訳できるようにする。 句法を確認する。 登場人物を理解する。 古文・漢文の問題に慣れる。 過去問題により試験に慣れる。	

2	9	基礎学力到達度テスト対策 チャレンジワーク 国語 問題演習	古文・漢文の問題に慣れる。	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	10	『蜻蛉日記』 町の小路の女 漢文 兼相愛	『蜻蛉日記』の文学的位置を確認する。 本文の内容を理解し、登場人物の心情、和歌に込められた思いを理解する。 思想について学び、墨子の愛について理解する。	
	11	問題演習 大学入試問題演習	古文・漢文の問題に慣れる。 過去問題により試験に慣れる。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	古典B	3	高校3年7～11組 (理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『古典B 改訂版』(大修館書店)	『新修 古典文法 二訂版』(京都書房), 『必携 新明説漢文』(尚文出版), 『古文単語301』(尚文出版), 『改訂版 読み・書き・覚える 日本文学史必携』(第一学習社), 『みるみる実力アップ古典総合2』(第一学習社)

1. 学習の目標

古典としての古文を通して、ものの見方・感じ方・考え方を広くし、古典に親しむことによって教養を身に付け、人生を豊かにする態度を身につける。また古典としての漢文を学ぶことで、日本文化が漢詩・漢文から受けた影響を知り、双方をより深く理解する。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 話すこと・聞くこと	3. 書くこと	4. 読むこと	5. 知識・理解
自ら進んで授業に取り組み、課題等をきちんと提出している。古典を通して人間や社会に対する考えを深めようとしている。	自分の考えをまとめて相手に分かるように伝えようとしている。また、人の意見を聞き、理解しようとしている。	課題に積極的に取り組み、自ら調べたことや考えたことを文章にまとめができている。	教材をきちんと読んで的確な読解ができている。また、古文・漢文の文体を味わい、音読ができている。	語句の意味・用法、文法、作品の背景となる事柄などについての的確な知識を身に付け、古典作品の読解に活かしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 基礎学力到達度テスト対策 『源氏物語』須磨	古典の学習目標、学習方法、ノートのとり方など。 基礎学力到達度テスト対策として、過去問題を解き問題に慣れる。 本文の内容を正しく理解する。 登場人物の特徴を読み取る。	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	5	漢詩・漢文 石壕吏 春夜宴桃李園序	漢詩・漢文の決まりを確認しながら、正しく読む。 句法を確認する。 本文の内容を正しく理解する。	
	6	みるみる実力アップ古典総合2 問題集 『枕草子』 頭の弁の、職に参りたまひて 漢文 荊軻	古文・漢文の問題に慣れる。 本文の内容を正しく理解する。 登場人物の人間関係について理解する。 漢文を正確に音読・現代語訳できるようにする。 句法を確認する。 登場人物を理解する。	
	7	みるみる実力アップ古典総合2 問題集	古文・漢文の問題に慣れる。	
2	9	基礎学力到達度テスト対策	基礎学力到達度テスト対策として、過去問題を解き問題に慣れる。	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
		みるみる実力アップ古典総合2	古文・漢文の問題に慣れる。	

	問題集		
10	『蜻蛉日記』 町の小路の女 漢文 兼相愛	『蜻蛉日記』の文学的位置を確認する。 本文の内容を理解し、登場人物の心情、和歌に込められた 思いを理解する。 中国の思想について学ぶ。 墨子の愛について理解する。	
11	みるみる実力アップ古典総合2 問題集	古文・漢文の問題に慣れる。	

※上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	古典B	2	高校3年14組 (文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『古典B 改訂版』(大修館書店)	『新修 古典文法 二訂版』(京都書房), 『必携 新明説漢文』(尚文出版), 『古文単語301』(尚文出版), 『改訂版 読み・書き・覚える 日本文学史必携』(第一学習社), 『みるみる実力アップ古典総合2』(第一学習社)

1. 学習の目標

古典としての古文を通して、ものの見方・感じ方・考え方を広くし、古典に親しむことによって教養を身に付け、人生を豊かにする態度を身につける。また古典としての漢文を学ぶことで、日本文化が漢詩・漢文から受けた影響を知り、双方をより深く理解する。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 話すこと・聞くこと	3. 書くこと	4. 読むこと	5. 知識・理解
自ら進んで授業に取り組み、課題等をきちんと提出している。古典を通して人間や社会に対する考えを深めようとしている。	自分の考えをまとめて相手に分かるように伝えようとしている。また、人の意見を聞き、理解しようとしている。	課題に積極的に取り組み、自ら調べたことや考えたことを文章にまとめようとしている。	教材をきちんと読んで的確な読解ができていいる。また、古文・漢文の文体を味わい、音読ができていいる。	語句の意味・用法、文法、作品の背景となる事柄などについての的確な知識を身に付け、古典作品の読解に活かしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 基礎学力到達度テスト対策 『源氏物語』須磨	古典の学習目標、学習方法、ノートのとり方など。 基礎学力到達度テスト対策として、過去問題を解き問題に慣れる。 本文の内容を正しく理解する。 登場人物の特徴を読み取る。	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	5	漢詩・漢文 石壕吏 春夜宴桃李園序	漢詩・漢文の決まりを確認しながら、正しく読む。 句法を確認する。 本文の内容を正しく理解する。	
	6	みるみる実力アップ古典総合2 問題集 『枕草子』 頭の弁の、職に参りたまひて 漢文 荊軻	古文・漢文の問題に慣れる。 本文の内容を正しく理解する。 登場人物の人間関係について理解する。 漢文を正確に音読・現代語訳できるようにする。 句法を確認する。 登場人物を理解する。	
	7	『みるみる実力アップ古典総合2』 問題集	古文・漢文の問題に慣れる。	
2	9	基礎学力到達度テスト対策	基礎学力到達度テスト対策として、過去問題を解き問題に慣れる。	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
		『みるみる実力アップ古典総合2』 問題集	古文・漢文の問題に慣れる。	

10	『蜻蛉日記』 町の小路の女 漢文 兼相愛	『蜻蛉日記』の文学的位置を確認する。 本文の内容を理解し、登場人物の心情、和歌に込められた 思いを理解する。 中国の思想について学ぶ。 墨子の愛について理解する。	
11	『みるみる実力アップ古典総合 2』問題集	古文・漢文の問題に慣れる。	

※上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	国語特講Ⅱ	5	高校3年12組 (文系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『高等学校 改訂版 現代文B』第一学習社	『核心漢字 2500+語彙 1000』(尚文出版), 『改訂版 読み・書き・覚える 日本文学史必携』(第一学習社), 『生きる現代文キーワード 増補改訂版』(駿台文庫), 『大学入試トライアル 私大対策評論 20 アドバンス』(いっぴな書店)

1. 学習の目標

漢字や語句の意味等, 知識面の充実を図る。また, 論理的な読み方を身に付ける。さらに, 背景となる思想を理解し, 入試に対応できる力を身に付ける。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 話すこと・聞くこと	3. 書くこと	4. 読むこと	5. 知識・理解
自ら進んで授業に取り組み, 課題等をきちんと提出している。現代の文章を通して人間や社会に対する考えを深めようとしている。	自分の考えをまとめて相手に分かるように伝えようとしている。また, 人の意見を聞き, 理解しようとしている。	課題に積極的に取り組み, 自ら調べたことや考えたことを文章にまとめできている。	教材をきちんと読んでいる。また, さまざまな文体を味わい, 音読ができている。	語句の意味・用法, 文法, 作品の背景となる事柄などについて, 的確な知識を身に付け, 作品の読解に活かしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	基礎学力到達度テスト対策問題演習 小説『舞姫』	「基礎学力到達度テスト」過去問題を用いた問題演習をする。選択肢の選び方を身に付ける。 近代の文学に描かれた人間の在り方を理解する。 小説の読み方を理解し, 登場人物の心情を理解する。	授業への取り組み 小テスト 定期試験 提出物
	5	問題演習	さまざまな文章を読み, 論理的な読み方を身に付ける。 評論のテーマの背景を理解し, 広い教養を身に付ける。	
	6	評論「コスモポリタニズムの可能性」	評論用語を中心に語彙力の充実を図るとともに内容を正しく理解する。	
	9	基礎学力到達度テスト対策問題演習	「基礎学力到達度テスト」過去問題を用いた, 問題演習をする。選択肢の選び方を身に付ける。	
2	10	入試対策	センターレベルの問題に対応できるようにする。 さまざまな文章を読んで論理的な読み方を身に付ける。 評論で扱われるテーマの背景を理解し, 評論用語を中心に語彙力の充実を図る。 場面の展開や背景を理解する。 小説全体のテーマを理解し, 作者の意図を理解する。 記述問題に対して, 適した解答の仕方を理解する。 選択肢の選び方を身に付ける。	授業への取り組み 小テスト 定期試験 提出物
	11		希望大学・私学難関レベルの問題に対応できるようにする。	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	国語特講Ⅲ	4	高校3年14組 (文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
なし	演習問題のプリント

1. 学習の目標

漢字や語句の意味等，知識面の充実を図る。また，論理的な読み方を身に付ける。さらに，背景となる思想を理解し，入試に対応できる記述力を身に付ける。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 話すこと・聞くこと	3. 書くこと	4. 読むこと	5. 知識・理解
授業に積極的に参加し，自ら考える姿勢ができています。	聞くことにより理解し，理解に対する意見を述べる事ができています。	情報を正確に取捨選択し，まとめ，適切な日本語表現で伝える事ができています。	論理的に読むことができ，作者の意図を理解している。	豊かで正確な語彙力を理解し，自ら使う事ができています。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	問題演習	さまざまな文章を読み，論理的な読み方を身に付ける。 古典作品の問題を通じて，幅広い教養を身につける。 記述問題に対して，適した解答の仕方を理解する。	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	5	問題演習	さまざまな文章を読み，論理的な読み方を身に付ける。 古典作品の問題を通じて，幅広い教養を身につける。 記述問題に対して，適した解答の仕方を理解する。	
	6	問題演習	さまざまな文章を読み，論理的な読み方を身に付ける。 古典作品の問題を通じて，幅広い教養を身につける。 記述問題に対して，適した解答の仕方を理解する。	
	7	問題演習	さまざまな文章を読み，論理的な読み方を身に付ける。 古典作品の問題を通じて，幅広い教養を身につける。 記述問題に対して，適した解答の仕方を理解する。	
2	9	問題演習	さまざまな文章を読み，論理的な読み方を身に付ける。 古典作品の問題を通じて，幅広い教養を身につける。 記述問題に対して，適した解答の仕方を理解する。 難関私大・国立大学の過去の入試問題を解く。	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	10	問題演習	さまざまな文章を読み，論理的な読み方を身に付ける。 古典作品の問題を通じて，幅広い教養を身につける。 記述問題に対して，適した解答の仕方を理解する。 難関私大・国立大学の過去の入試問題を解く。	
	11	問題演習	さまざまな文章を読み，論理的な読み方を身に付ける。 古典作品の問題を通じて，幅広い教養を身につける。 記述問題に対して，適した解答の仕方を理解する。	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	世界史B	3	高3年14組 (文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『詳説 世界史B』(山川出版社)	『グローバルワイド最新世界史図表』(第一学習社) 『センター形式世界史問題集』(山川出版社) 『世界史B用語集』(山川出版社) 『一問一答世界史B用語問題集』(山川出版社)

1. 学習の目標

古代から近現代までの世界の歴史の大きな枠組みと流れを、わが国の歴史と関連付けながら理解する。また、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に貢献できる日本人としての自覚と資質を養い、実践できるようにする。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
世界の様々な地域の文化や習慣を理解し、世界における日本人の地位に相応しい国際感覚を学ぶ。	各国の歴史が、世界の様々な地域に影響を与え、遠く、アジア・日本とも繋がっていることを多角的に考察する。	図版や地図を通して各地の世界遺産や、失われた過去の遺産を学び、今日の社会に残る文化の起源を実際の資料から理解する。	世界の歴史を理解する上で必要な知識を身につけ、その関連性を理解する。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第8章：近世ヨーロッパ世界の形成 ・ヨーロッパ世界の拡大 ・ルネサンス ・宗教改革 ・ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	新航路開拓でポルトガル・スペインが発展したことを理解する。 欧州のみならず、世界各地で生じた社会変容を理解する。 ヒューマニズムについて理解する。 権利の伸長を求めた市民階級存在と宗教改革の関連を理解する。 オランダの覇権と英仏の台頭を中心に、17世紀の西欧について理解する。 プロイセンの強国化やロシアの台頭の課程とその影響について、当時の国際関係をふまえて理解する。	授業態度 小テスト 木1テスト 定期試験
	5	第9章：ヨーロッパ主権国家体制の展開 ・重商主義と啓蒙専制主義 ・ヨーロッパ諸国の海外進出 ・17～18Cのヨーロッパ文化	外植民地経営の活発化と主権国家体制の確立を理解する。 西欧諸国の近代化と、東欧の啓蒙専制国家の政策を理解する。 18世紀ヨーロッパ社会と文化を理解する。 英仏の覇権争いを整理する。また、植民地や奴隷供給地とされた地域の状況にも注目する。	
	6	第10章：欧米における近代社会の成長 ・産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオン	産業革命の背景と影響について、世界経済的視野から考察させる。また、新たに発生した諸問題にも注目する。 近代民主政治の出発点としてアメリカ独立の世界史的意義を理解する。 フランス革命による国民国家の原則の確立を理解する。	

	7	第11章：欧米における近代国民国家の発展 ・ウィーン体制 ・ヨーロッパの再編 ・アメリカ合衆国の発展 ・19C欧米の文化	ナショナリズムの高揚や社会主義思想の出現という時代状況を認識し、19世紀前半の革命運動の展開を整理する。 イタリア・ドイツの統一、南北戦争など国民国家の発展を軸に、19世紀後半の欧米諸国の動向について理解する。 ヨーロッパ諸国のアフリカ侵略や合衆国のカリブ海政策など、欧米列強による世界秩序形成の様相について理解する。	
2	9	第12章：アジア諸地域の動揺 ・オスマン帝国支配の動揺とアラブの目覚 ・南アジア・東南アジアの植民地化 ・東アジアの激動 問題演習	イスラーム世界の改革運動について、西欧化、民族意識の高揚、イスラーム改革運動など諸側面を意識しながら理解する。 ヨーロッパ列強による植民地化の拡大と社会の変化、各地での民族意識の高まりについて理解する。 アヘン戦争から辛亥革命に至る経緯について、旧体制温存と変革、近代化と排外主義など対立要素を整理して把握する。 各時代・地域の出来事を関連させて入試問題を解く力を身につける。	授業態度 小テスト 木1テスト 定期試験
	10	第13章：帝国主義とアジアの民族運動 第14章：二つの世界大戦 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ・アジア・アフリカの民族主義の進展 ・世界恐慌とファシズム諸国の侵略 ・第二次世界大戦	欧米列強による世界秩序形成の様相について理解する。 19世紀以降のヨーロッパ各国の帝国主義的植民地政策が、弱体化したオスマン帝国支配下のバルカン半島で衝突する背景を理解する。 背景としての国際的な対立関係の動向、総力戦としての大戦的な性格、大戦終結に至る経緯を把握する。 ロシア革命の世界史的意義や、ヴェルサイユ・ワシントン両体制における国際協調の成果と限界について考察する。 大戦後の欧米各国の社会状況を把握し、現代社会につながる大衆社会が出現したことの意味について考察する。 アジア・アフリカでの独立運動や国家形成の動きにおいて、国民国家の理念が果たした役割と問題点について考察する 世界恐慌によって国際協調主義から自国中心主義となり、第二次世界大戦に至る対立状況が生まれたことを認識する。 緒戦における枢軸国軍の勢力拡大と占領地における抵抗、連合国軍による反撃と終戦にいたる経緯について理解する。	
	11	第15章：冷戦と第三世界自立	米ソ二極化による東西冷戦構造と、第三勢力の台頭を理解する。	
	12	《特別授業で実施》 第16章：現代の世界	冷戦の解消過程と世界の多極化。第三世界の多元化や地域紛争など、現代社会が抱える問題について理解する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	日本史B	3	高校3年14組 (文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『改訂版 詳説日本史B』(山川出版社)	『最新日本史図表 三訂版』(第一学習社), 『改訂版 詳録 新日本史史料集成』(第一学習社), 『山川 一問一答 日本史 第3版』(山川出版社), 『改訂版 重要問題演習日本史B』(数研出版)

1. 学習の目標

日本史に関する知識を深め、歴史的思考力を育むため、基本的な「学習の目標」は不変である。我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察し、我が国の文化を伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚を国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。原始・古代から現代までの日本史の展開を、世界史的視野に立ち、多くの要素を踏まえ、幅広い見方で考える。また、歴史の展開の中で、日本文化の特色やその伝統の形成について認識を深める。その際、歴史の過程を実証的に考察することによって歴史の見方・考え方を身につけ、歴史的思考力を育成する。そして、民主的・平和的な国家・社会を形成する自覚と国際社会に主体的に対応できる資質を養う。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付ける。また、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を身に付ける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	7章 幕藩体制の展開 2, 経済の発展 3, 元禄文化	・寛永期を画期として幕政が安定期を迎え、町人の経済的・文化的活動を活発化させ、元禄文化を開花させていった国内情勢を捉える。	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	5	8章 幕藩体制の動揺 1, 幕政の改革 2, 幕府の衰退 3, 化政文化	・18世紀から19世紀にかけて、商人の台頭が目立つ一方で、農村の本百姓体制が崩壊し、幕藩体制の動揺が顕著になっていった様子を理解する。 ・幕府による諸改革にも関わらず国内情勢の悪化が深刻化し、19世紀に内憂外患が頂点に達して幕威が低下する様子を理解させるとともに、その一方で政治・社会・文化など多くの面で近代への胎動が強まる様子を考える。	
	6	近現代史の概説	・明治維新の前提として、1853年のペリー来航以後の内外情勢を捉える。 ・明治の前半期として、明治初年の維新期に近代化の諸改革を遂行し、続いて立憲体制の樹立に努めた国内情勢を理解する。	
	7	近現代史の概説	・明治の後半期として、日清・日露戦争の前後における、条約改正、朝鮮問題、韓国併合などとの関係性や東アジアを中心とした国際情勢を理解する。	

2	9	近現代史の概説	<ul style="list-style-type: none"> ・大正期に入り、日本が帝国主義列強の一員として国際政局に登場した概要を理解する。 ・第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、第二次世界大戦、太平洋戦争と、戦争の道を進む状況を理解させるとともに、この間の大正デモクラシーといった文化的特徴にも留意する。 	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	10	近現代史の概説 問題演習 (一般対策)	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争の敗北によって、日本は史上初めて外国軍隊に占領されたが、その後の占領期の民主化政策と1950年代の独立回復の動きを考える。 ・独立後、経済・文化国家としての道を歩み、1960年代に高度経済成長を達成する日本の経済復興を世界的な視野から理解する。 ・1970年代から80年代にかけて経済大国として成長する日本の様子と、1990年代の現代、冷戦終結という新しい情勢の下で流動する内外情勢を分析する。 ・問題集を使用し、問題演習に取り組む。 	
	11	問題演習 (一般対策)	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集を使用し、問題演習に取り組む。 	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	世界史研究	5	高3年2組, 3組, 6組 (文系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『詳説 世界史B』(山川出版社)	『グローバルワイド最新世界史図表』(第一学習社) 『センター形式世界史問題集』(山川出版社) 『世界史B用語集』(山川出版社) 『一問一答世界史B用語問題集』(山川出版社)

1. 学習の目標

古代から近現代までの世界の歴史の大きな枠組みと流れを、わが国の歴史と関連付けながら理解する。また、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に貢献できる日本人としての自覚と資質を養い、実践できるようにする。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
世界の様々な地域の文化や習慣を理解し、世界における日本人の地位に相応しい国際感覚を学ぶ。	各国の歴史が、世界の様々な地域に影響を与え、遠く、アジア・日本とも繋がっていることを多角的に考察する。	図版や地図を通して各地の世界遺産や、失われた過去の遺産を学び、今日の社会に残る文化の起源を実際の資料から理解する。	世界の歴史を理解する上で必要な知識を身につけ、その関連性を理解する。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第8章：近世ヨーロッパ世界の形成 ・ヨーロッパ世界の拡大 ・ルネサンス ・宗教改革 ・ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	新航路開拓でポルトガル・スペインが発展したことを理解する。 欧州のみならず、世界各地で生じた社会変容を理解する。 ヒューマニズムについて理解する。 権利の伸長を求めた市民階級存在と宗教改革の関連を理解する。 オランダの覇権と英仏の台頭を中心に、17世紀の西欧について理解する。 プロイセンの強国化やロシアの台頭の課程とその影響について、当時の国際関係をふまえて理解する。	授業態度 小テスト 木1テスト 定期試験
	5	第9章：ヨーロッパ主権国家体制の展開 ・重商主義と啓蒙専制主義 ・ヨーロッパ諸国の海外進出 ・17～18Cのヨーロッパ文化	海外植民地経営の活発化と主権国家体制の確立を理解する。 西欧諸国の近代化と、東欧の啓蒙専制国家の政策を理解する。 18世紀ヨーロッパ社会と文化を理解する。 英仏の覇権争いを整理する。また、植民地や奴隷供給地とされた地域の状況にも注目する。	
	6	第10章：欧米における近代社会の成長 ・産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオン	産業革命の背景と影響について、世界経済的視野から考察させる。また、新たに発生した諸問題にも注目する。 近代民主政治の出発点としてアメリカ独立の世界史的意義を理解する。 フランス革命による国民国家の原則の確立を理解する。	

	7	第11章：欧米における近代国民国家の発展 ・ウィーン体制 ・ヨーロッパの再編 ・アメリカ合衆国の発展 ・19C欧米の文化	ナショナリズムの高揚や社会主義思想の出現という時代状況を認識し、19世紀前半の革命運動の展開を整理する。 イタリア・ドイツの統一、南北戦争など国民国家の発展を軸に、19世紀後半の欧米諸国の動向について理解する。 ヨーロッパ諸国のアフリカ侵略や合衆国のカリブ海政策など、欧米列強による世界秩序形成の様相について理解する。	
	9	第12章：アジア諸地域の動揺 ・オスマン帝国支配の動揺とアラブの目覚 ・南アジア・東南アジアの植民地化 ・東アジアの激動 問題演習	イスラーム世界の改革運動について、西欧化、民族意識の高揚、イスラーム改革運動など諸側面を意識しながら理解する。 ヨーロッパ列強による植民地化の拡大と社会の変化、各地での民族意識の高まりについて理解する。 アヘン戦争から辛亥革命に至る経緯について、旧体制温存と変革、近代化と排外主義など対立要素を整理して把握する。 各時代・地域の出来事を関連させて入試問題を解く力を身につける。	授業態度 小テスト 木1テスト 定期試験
2	10	第13章：帝国主義とアジアの民族運動 第14章：二つの世界大戦 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ・アジア・アフリカの民族主義の進展 ・世界恐慌とファシズム諸国の侵略 ・第二次世界大戦	欧米列強による世界秩序形成の様相について理解する。 19世紀以降のヨーロッパ各国の帝国主義的植民地政策が、弱体化したオスマン帝国支配下のバルカン半島で衝突する背景を理解する。 背景としての国際的な対立関係の動向、総力戦としての大戦的な性格、大戦終結に至る経緯を把握する。 ロシア革命の世界史的意義や、ヴェルサイユ・ワシントン両体制における国際協調の成果と限界について考察する。 大戦後の欧米各国の社会状況を把握し、現代社会につながる大衆社会が出現したことの意味について考察する。 アジア・アフリカでの独立運動や国家形成の動きにおいて、国民国家の理念が果たした役割と問題点について考察する 世界恐慌によって国際協調主義から自国中心主義となり、第二次世界大戦に至る対立状況が生まれたことを認識する。 緒戦における枢軸国軍の勢力拡大と占領地における抵抗、連合国軍による反撃と終戦にいたる経緯について理解する。	
	11	第15章：冷戦と第三世界自立	米ソ二極化による東西冷戦構造と、第三勢力の台頭を理解する。	
	12	《特別授業で実施》 第16章：現代の世界	冷戦の解消過程と世界の多極化。第三世界の多元化や地域紛争など、現代社会が抱える問題について理解する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	世界史研究	5	高3年12組 (文系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『詳説 世界史B』(山川出版社)	『グローバルワイド最新世界史図表』(第一学習社) 『センター形式世界史問題集』(山川出版社) 『世界史B用語集』(山川出版社) 『一問一答世界史B用語問題集』(山川出版社)

1. 学習の目標

古代から近現代までの世界の歴史の大きな枠組みと流れを、わが国の歴史と関連付けながら理解する。また、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に貢献できる日本人としての自覚と資質を養い、実践できるようにする。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
世界の様々な地域の文化や習慣を理解し、世界における日本人の地位に相応しい国際感覚を学ぶ。	各国の歴史が、世界の様々な地域に影響を与え、遠く、アジア・日本とも繋がっていることを多角的に考察する。	図版や地図を通して各地の世界遺産や、失われた過去の遺産を学び、今日の社会に残る文化の起源を実際の資料から理解する。	世界の歴史を理解する上で必要な知識を身につけ、その関連性を理解する。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第8章：近世ヨーロッパ世界の形成 ・ヨーロッパ世界の拡大 ・ルネサンス ・宗教改革 ・ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	新航路開拓でポルトガル・スペインが発展したことを理解する。 欧州のみならず、世界各地で生じた社会変容を理解する。 ヒューマニズムについて理解する。 権利の伸長を求めた市民階級存在と宗教改革の関連を理解する。 オランダの覇権と英仏の台頭を中心に、17世紀の西欧について理解する。 プロイセンの強国化やロシアの台頭の課程とその影響について、当時の国際関係をふまえて理解する。	授業態度 小テスト 木1テスト 定期試験
	5	第9章：ヨーロッパ主権国家体制の展開 ・重商主義と啓蒙専制主義 ・ヨーロッパ諸国の海外進出 ・17～18Cのヨーロッパ文化	海外植民地経営の活発化と主権国家体制の確立を理解する。 西欧諸国の近代化と、東欧の啓蒙専制国家の政策を理解する。 18世紀ヨーロッパ社会と文化を理解する。 英仏の覇権争いを整理する。また、植民地や奴隷供給地とされた地域の状況にも注目する。	
	6	第10章：欧米における近代社会の成長 ・産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオン	産業革命の背景と影響について、世界経済的視野から考察させる。また、新たに発生した諸問題にも注目する。 近代民主政治の出発点としてアメリカ独立の世界史的意義を理解する。 フランス革命による国民国家の原則の確立を理解する。	

	7	第11章：欧米における近代 国民国家の発展 ・ウィーン体制 ・ヨーロッパの再編 ・アメリカ合衆国の発展 ・19C欧米の文化	ナショナリズムの高揚や社会主義思想の出現という時代状況を認識し、19世紀前半の革命運動の展開を整理する。 イタリア・ドイツの統一、南北戦争など国民国家の発展を軸に、19世紀後半の欧米諸国の動向について理解する。 ヨーロッパ諸国のアフリカ侵略や合衆国のカリブ海政策など、欧米列強による世界秩序形成の様相について理解する。	
2	9	第12章：アジア諸地域の動揺 ・オスマン帝国支配の動揺とアラブの目覚 ・南アジア・東南アジアの植民地化 ・東アジアの激動 問題演習	イスラーム世界の改革運動について、西欧化、民族意識の高揚、イスラーム改革運動など諸側面を意識しながら理解する。 ヨーロッパ列強による植民地化の拡大と社会の変化、各地での民族意識の高まりについて理解する。 アヘン戦争から辛亥革命に至る経緯について、旧体制温存と変革、近代化と排外主義など対立要素を整理して把握する。 各時代・地域の出来事を関連させて入試問題を解く力を身につける。	授業態度 小テスト 木1テスト 定期試験
	10	第13章：帝国主義とアジアの民族運動 第14章：二つの世界大戦 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ・アジア・アフリカの民族主義の進展 ・世界恐慌とファシズム諸国の侵略 ・第二次世界大戦	欧米列強による世界秩序形成の様相について理解する。 19世紀以降のヨーロッパ各国の帝国主義的植民地政策が、弱体化したオスマン帝国支配下のバルカン半島で衝突する背景を理解する。 背景としての国際的な対立関係の動向、総力戦としての大戦的な性格、大戦終結に至る経緯を把握する。 ロシア革命の世界史的意義や、ヴェルサイユ・ワシントン両体制における国際協調の成果と限界について考察する。 大戦後の欧米各国の社会状況を把握し、現代社会につながる大衆社会が出現したことの意味について考察する。 アジア・アフリカでの独立運動や国家形成の動きにおいて、国民国家の理念が果たした役割と問題点について考察する 世界恐慌によって国際協調主義から自国中心主義となり、第二次世界大戦に至る対立状況が生まれたことを認識する。 緒戦における枢軸国軍の勢力拡大と占領地における抵抗、連合国軍による反撃と終戦にいたる経緯について理解する。	
	11	第15章：冷戦と第三世界自立	米ソ二極化による東西冷戦構造と、第三勢力の台頭を理解する。	
	12	《特別授業で実施》 第16章：現代の世界	冷戦の解消過程と世界の多極化。第三世界の多元化や地域紛争など、現代社会が抱える問題について理解する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	日本史研究	5	高校3年1, 3～5組 (文系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『改訂版 詳説日本史B』(山川出版社)	『最新日本史図表 三訂版』(第一学習社), 『改訂版 詳録 新日本史史料集成』(第一学習社), 『山川 一問一答 日本史 第3版』(山川出版社), 『改訂版 4ステージ演習ノート日本史B』(数研出版)

1. 学習の目標

日本史に関する知識を深め、歴史的思考力を育むため、基本的な「学習の目標」は不変である。我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察し、我が国の文化を伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚を国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。原始・古代から現代までの日本史の展開を、世界史的視野に立ち、多くの要素を踏まえ、幅広い見方で考える。また、歴史の展開の中で、日本文化の特色やその伝統の形成について認識を深める。その際、歴史の過程を実証的に考察することによって歴史の見方・考え方を身につけ、歴史的思考力を育成する。そして、民主的・平和的な国家・社会を形成する自覚と国際社会に主体的に対応できる資質を養う。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付ける。また、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を身に付ける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	7章 幕藩体制の展開 2, 経済の発展 3, 元禄文化	・寛永期を画期として幕政が安定期を迎え、町人の経済的・文化的活動を活発化させ、元禄文化を開花させていった国内情勢を捉える。	授業への取り組み 提出物 小テスト 木1テスト 定期試験
	5	8章 幕藩体制の動揺 1, 幕政の改革 2, 幕府の衰退 3, 化政文化	・18世紀から19世紀にかけて、商人の台頭が目立つ一方で、農村の本百姓体制が崩壊し、幕藩体制の動揺が顕著になっていった様子を理解する。 ・幕府による諸改革にも関わらず国内情勢の悪化が深刻化し、19世紀に内憂外患が頂点に達して幕威が低下する様子を理解させるとともに、その一方で政治・社会・文化など多くの面で近代への胎動が強まる様子を考える。	
	6	古代～近世の復習 (基礎学力到達度テスト対策)	・基礎学力到達度テストの出題範囲の問題演習を通して、知識の定着を図る。	
	7	古代～近世の復習 (基礎学力到達度テスト対策)	・基礎学力到達度テストの出題範囲の問題演習を通して、知識の定着を図る。	

2	9	古代～近世の復習 (基礎学力到達度テスト対策)	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力到達度テストの出題範囲の問題演習を通して、知識の定着を図る。 	授業への取り組み 提出物 小テスト 木1テスト 定期試験
	10	近現代史の概説	<ul style="list-style-type: none"> 戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を理解する。 戦後政治の集大成となる日本国憲法の意義を理解する。 東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が集結し、日本が独立した意義を考える。 連合国による日本の占領が集結したことと、その後の日米関係の継続について様々な国の立場から考察する。 独立後の日本国内政治について、55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 冷戦構造に雪解けの状況が生まれる中、日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・ソ連・中華人民共和国・大韓民国などとの関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。 	
	11	近現代史の概説	<ul style="list-style-type: none"> 冷戦構造に雪解けの状況が生まれる中、日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・ソ連・中華人民共和国・大韓民国などとの関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。 	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	日本史研究	5	高校3年12組 (文系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『改訂版 詳説日本史B』(山川出版社)	『最新日本史図表 三訂版』(第一学習社), 『改訂版 詳録 新日本史史料集成』(第一学習社), 『山川 一問一答 日本史 第3版』(山川出版社), 『改訂版 重要問題演習日本史B』(数研出版)

1. 学習の目標

日本史に関する知識を深め、歴史的思考力を育むため、基本的な「学習の目標」は不変である。我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察し、我が国の文化を伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚を国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。原始・古代から現代までの日本史の展開を、世界史的視野に立ち、多くの要素を踏まえ、幅広い見方で考える。また、歴史の展開の中で、日本文化の特色やその伝統の形成について認識を深める。その際、歴史の過程を実証的に考察することによって歴史の見方・考え方を身につけ、歴史的思考力を育成する。そして、民主的・平和的な国家・社会を形成する自覚と国際社会に主体的に対応できる資質を養う。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付ける。また、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を身に付ける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	7章 幕藩体制の展開 2, 経済の発展 3, 元禄文化	・寛永期を画期として幕政が安定期を迎え、町人の経済的・文化的活動を活発化させ、元禄文化を開花させていった国内情勢を捉える。	授業への取り組み 提出物 小テスト 木1テスト 定期試験
	5	8章 幕藩体制の動揺 1, 幕政の改革 2, 幕府の衰退 3, 化政文化	・18世紀から19世紀にかけて、商人の台頭が目立つ一方で、農村の本百姓体制が崩壊し、幕藩体制の動揺が顕著になっていった様子を理解する。 ・幕府による諸改革にも関わらず国内情勢の悪化が深刻化し、19世紀に内憂外患が頂点に達して幕威が低下する様子を理解させるとともに、その一方で政治・社会・文化など多くの面で近代への胎動が強まる様子を考える。	
	6	問題演習 (一般対策)	・問題集を使用し、問題演習に取り組む。	
	7	問題演習 (一般対策)	・問題集を使用し、問題演習に取り組む。	

2	9	問題演習 (一般対策)	・問題集を使用し，問題演習に取り組む。	授業への取り組み 提出物 小テスト 木1テスト 定期試験
	10	問題演習 (一般対策)	・問題集を使用し，問題演習に取り組む。	
	11	問題演習 (一般対策)	・問題集を使用し，問題演習に取り組む。	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	地理研究	5	高校3年1, 6組 (文系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『地理B』(東京書籍), 『新詳高等地図』(帝国書院)	『世界の諸地域NOW2020』(帝国書院), 『データブックオブザワールド vol. 34 : 2022』(二宮書店), 『マスター地理B問題集』(二宮書店)

1. 学習の目標

問題演習を通してこれまでの学習内容を理解し直し、ポイントをつかんだ学習を目指す。また、新聞や図表類、写真を利用して文章理解力や読解力を身につけ、論理的思考力や表現力を養う。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
世界の様々な地域の特徴を学び、地球の姿を理解する。	各地が密接に連携しあって今日の生活が成立していることを考察する。	様々な図表、写真、新聞記事を扱うことで表現方法や読解力、理解力を高める。	世界各地の姿や各地域で暮らす人々を学ぶことで世界の将来を考える。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	問題演習(偶数中心) I : 系統地理 II : 世界地誌	<ul style="list-style-type: none"> 各項目について、これまでの内容を結びつけて大学入試問題を解く力を身につける。 各項目について、これまでの内容を結びつけて大学入試問題を解く力を身につける。 	定期試験 木1テスト 模試結果 小テスト 授業への取り組み 行動観察 提出物
	5			
	6	問題演習(奇数中心) I : 系統地理 II : 世界地誌		
	7			
2	9	系統分野総復習 地形図の読解 地図投影法 (基礎学力到達度テスト)	<ul style="list-style-type: none"> 1年～2年中盤までの内容を総復習することによって、問題演習の理解度をより高める。 実際の地形図を手にして、縮尺・地図記号・等高線などの基本事項をもとに地図を読む力を身につける。 球体の地球を平面に表現する方法を紹介し、用途によって使用する図法が異なることを理解する。 	定期試験 木1テスト 模試結果 小テスト 授業への取り組み 行動観察 提出物
	10	N I E (教育に新聞を)	<ul style="list-style-type: none"> 最近の新聞から地理に関する記事を提示することで、地理で学ぶ幅広さ、奥深さを理解し、地理は生活に根ざした内容であることを理解する。高校で学んだ事柄が身の回りで実際に起こっていることを理解し、新聞の有用性を理解する。限られたスペースで簡潔にまとめられている新聞記事を読むことで文章理解力を身につけ、論理的な思考力や偏らない発想力を養う。 	
	11	景観を読む	<ul style="list-style-type: none"> 写真をもとに情報を得る力、読み解く力を養う。 	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	世界史応用	4	高校3年12組 (文系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『詳説 世界史B 改訂版』 (山川出版社)	『最新世界史図表』 (第一学習社) 『センター形式 世界史問題集』 (山川出版社) 『世界史B用語集』 (山川出版社) 『一問一答 世界史』 (山川出版社)

1. 学習の目標

古代から近現代までの世界の歴史の大きな枠組みと流れを、わが国の歴史と関連付けながら理解する。また、文化の多様性と現代世界の特徴を広い視野から考察することにより、歴史的思考力を培い、国際社会に貢献できる日本人としての自覚と資質を身につけるようにする。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
世界の様々な地域の文化や習慣を理解し、世界における日本人の地位に相応しい国際感覚を理解している。	各国の歴史が、世界の様々な地域に影響を与え、遠くアジア・日本とも繋がっていることを多角的に考察している。	図版や地図を通して各地の世界遺産や、失われた過去の遺産を学び、今日の社会に残る文化の起源を実際の資料から理解している。	世界の歴史を理解する上で必要な知識を身につけ、その関連性を理解している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	問題演習一通史 古代オリエント 古代ギリシア 古代ローマ	・学習内容の復習により、重要用語や年代の確認ができるようにする。 ・問題集を使用して、基本的な用語や事件名が理解できているかを確認する。 ・大学入学共通テストなどを想定した正誤形式問題に慣れるようにする。	授業への取り組み・課題 定期試験
	5	問題演習一通史 イラン世界 インド世界 古代中国～明清	・学習内容の復習により、重要用語や年代の確認ができるようにする。 ・問題集を使用して、基本的な用語や事件名が理解できているかを確認する。 ・大学入学共通テストなどを想定した正誤形式問題に慣れるようにする。	
	6	問題演習一通史 イスラーム世界 東南アジア 古アメリカ 中世ヨーロッパ	・学習内容の復習により、重要用語や年代の確認ができるようにする。 ・問題集を使用して、基本的な用語や事件名が理解できているかを確認する。 ・大学入学共通テストなどを想定した正誤形式問題に慣れるようにする。	
	7	問題演習一通史 近世ヨーロッパ	・学習内容の復習により、重要用語や年代の確認ができるようにする。 ・問題集を使用して、基本的な用語や事件名が理解できているかを確認する。 ・大学入学共通テストなどを想定した正誤形式問題に慣れるようにする。	
2	9	問題演習一通史 近代ヨーロッパ	・学習内容の復習により、重要用語や年代の確認ができるようにする。 ・問題集を使用して、基本的な用語や事件名が理解で	授業への取り組み・課題 定期試験

	近代アジア・アフリカ 帝国主義～第二次大戦	きているかを確認する。 ・大学入学共通テストなどを想定した正誤形式問題に慣れるようにする。	
10	テーマ史演習 共通テスト過去問研究	・学習内容の復習により、重要用語や年代の確認ができるようにする。 ・問題集を使用して、基本的な用語や事件名が理解できているかを確認する。 ・大学入学共通テストなどを想定した正誤形式問題に慣れるようにする。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	日本史応用	4	高校3年12組 (文系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『改訂版 詳説日本史B』(山川出版社)	『山川 詳説日本史図録 第7版』(山川出版社), 『改訂版 詳録 新日本史史料集成』(第一学習社), 『山川 一問一答 日本史 第3版』(山川出版社), 『改訂版 重要問題演習日本史B』(数研出版)

1. 学習の目標

日本史に関する知識を深めるため、基本的な「学習の目標」は不変である。我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察し、我が国の文化を伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚を国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。原始・古代から現代までの日本史の展開を、世界史的視野に立ち、多くの要素を踏まえ、幅広い見方で考える。また、歴史の展開の中で、日本文化の特色やその伝統の形成について認識を深める。その際、歴史の過程を実証的に考察することによって歴史の見方・考え方を身につけ、歴史的思考力を育成する。そして、民主的・平和的な国家・社会を形成する自覚と国際社会に主体的に対応できる資質を養う。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付ける。また、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を身に付ける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	近現代史の概説	<ul style="list-style-type: none"> ・明治維新の前提として、1853年のペリー来航以後の内外情勢を捉える。 ・明治の前半期として、明治初年の維新时期に近代化の諸改革を遂行し、続いて立憲体制の樹立に努めた国内情勢を理解する。 	授業への取り組み 提出物 小テスト 木1テスト 定期試験
	5	近現代史の概説	<ul style="list-style-type: none"> ・明治の後半期として、日清・日露戦争の前後における、条約改正、朝鮮問題、韓国併合などとの関係性や東アジアを中心とした国際情勢を理解する。 ・近代産業の発展に伴う社会問題・労働問題の発生や、国民生活の向上について考察する。 	
	6	近現代史の概説	<ul style="list-style-type: none"> ・大正期に入り、日本が帝国主義列強の一員として国際政局に登場した概要を理解する。 ・第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、第二次世界大戦、太平洋戦争と、戦争の道を進む状況を理解させるとともに、この間の大正デモクラシーといった文化的特徴を把握する。 ・戦争の敗北によって、日本は史上初めて外国軍隊に占領されたが、その後の占領期の民主化政策と1950年代の独立回復の動きを考える。 ・独立後、経済・文化国家としての道を歩み、1960年代に高度経済成長を達成する日本の経済復興を世界的な視野から理解する。 	

	7	近現代史の概説	・1970年代から80年代にかけて経済大国として成長する日本の様子と、1990年代の現代、冷戦終結という新しい情勢の下で流動する内外情勢を分析する。	
2	9	問題演習 (一般対策)	・問題集を使用し、問題演習に取り組む。	授業への取り組み 提出物 小テスト 木1テスト 定期試験
	10	問題演習 (一般対策)	・問題集を使用し、問題演習に取り組む。	
	11	問題演習 (一般対策)	・問題集を使用し、問題演習に取り組む。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	倫理研究	2	高校3年5組 (総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『高校倫理 新訂版』(実教出版)	『テオリア最新倫理資料集三訂版』(第一学習社), 『2022 大学入学共通テスト 倫理重要問題集』(実教出版)

1. 学習の目標

人間尊重と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己確立を目指し、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
思想に対する関心や、意欲を高めることができたか。意欲的に学習課題に取り組んでいる。	取り上げた先哲を、歴史的状況の中で理解することができる。	学習の中で追求し、考察した過程や結果について、適切に表現する方法を身につけている。	政治・経済・社会・生活など様々な観点から歴史的事象を理解し、その知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第3章 第3節 近世日本の思想	・2年次の既習事項を踏まえて、封建社会の思想として受容されてきた、儒教、朱子学、陽明学、国学について学び、当時の社会にどのように利用されていたかを理解する。 ・幕末には洋学の影響も見られたことを理解する。	定期試験 提出物
	5	第4節 西洋思想の受容と展開	・啓蒙思想家の台頭で、いわゆる文明開化の方向へ日本が導かれ、自由民権運動への多大な影響を残したことを理解する。	
	6	第4節 西洋思想の受容と展開	・明治末から昭和にかけて、独創的な思想や学問が形成された。西洋思想の上に東洋思想を導入した独自の思想や、民俗学などの新しい学問分野など多岐にわたる思想を学ぶ。また、満州事変を契機とした国家主義の影響の強まりや、社会主義・自由主義的思想を学ぶ。これらを通じて、自己の進むべき道について考察できる思考力を養う。	
	7	総復習	・これまで学んだ内容を、問題演習を通して復習し、入試に対応できる学力を身につける。	
2	9	総復習	・これまで学んだ内容を、問題演習を通して復習し、入試に対応できる学力を身につける。	定期試験 提出物
	10	総復習	・学年末試験対策や、これまで学んだことを基礎に倫理的なテーマを取り上げて、現代社会に生きる私たちの力をディベート等を通じて習得する。	
	11			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	政治経済研究	3	高校3年5組 (総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『改訂版 政治・経済』(数研出版)	『2021 新政治・経済資料 三訂版』(実教出版), 『2022 大学入学共通テスト 政治・経済重要問題集』 (実教出版)

1. 学習の目標

民主主義の本質について理解を深めるとともに、理論的・体系的に理解し、現代の政治、経済、国際関係などについて客観的に捉える。これらの理解を踏まえて現代の諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民としての必要な能力と態度を身につける。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
現代の政治、経済、国際関係に対して関心を高めていくとともに、意欲的に課題を追究し、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進を図るため客観的に考察しようとしている。	現代の政治、経済、国際関係に関する諸課題を発見し、その本質や特質、さらには望ましい解決の在り方について広い視野に立ち、多面的・多角的に考察するとともに、様々な立場を踏まえて公正な判断をしている。	現代の政治、経済、国際関係に関した諸資料を様々なメディアにより収集し、有用な情報を主体的に選択・活用するとともに、それを追究していく過程や結果について様々な方法を駆使して適切に表現している。	現代の政治、経済、国際関係に関する知識を統合し、体系的に整理するとともに、それを追究していく姿勢を身につけ、発展的な知識へと結びつけることができている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第2編 第1章 現代経済のしくみと特質	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業の地位と役割を理解し、日本経済における起爆剤となりうる可能性を示唆するとともに、資料等を用いて、現状の課題についても認識する。 ・これまでの日本の農業問題についての歴史を振り返りかえり、置かれている立場について課題を提起できる視点を持つ。近年の農業の在り方についても学習させ、将来における打開策を検討する。 	定期試験 提出物
	5	第2編 第1章 現代経済のしくみと特質	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、「働き方改革」が叫ばれる中で、日本国民の労働に関する現状を把握する。 ・大きな政府と小さな政府、住民生活と地方自治、情報化、少子高齢化と社会保障、労使関係と労働市場、消費者問題、農業・食料問題について学び、今後の課題について考える。 	
	6	第2章 現代の国際政治と日本 第1編 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法	<ul style="list-style-type: none"> ・人種、民族問題と国際紛争、などを学び、国際社会において日本の担う役割について意識しながら考察する。 ・日本国憲法の平和主義が、世界的に見ても徹底されている内容であることを留意し、日本国民として、世界の平和にどのように寄与できるか模索する。 	
	7	第1編 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権の内容、新しい人権の内容に触れ、過去の判例を用いながら理解を深めていく。また、自衛隊の活動や、国際協調について学び、今後の我が国の安全保障の課題について考える。 	

2	9	第1編 第1章 民主政治の基本原理と日本 国憲法	<ul style="list-style-type: none"> ・国会、内閣、裁判所のしくみを学び、現代の政治的な事象と関係性を持ちながら、社会全体における事象に興味を持つ。 ・55年体制など、戦後の政党の動向を見ながら、現代の日本の政治についても概観し、理解する。 	定期試験 提出物
	10	第1編 第1章 民主政治の基本原理と日本 国憲法	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙制度の種類や特徴に触れ、民主主義における国民の大切な権利である参政権を公正なものとするための施策についても思いを巡らせる。また、18歳選挙権についての議論も展開する。 	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	倫理政経	3	高校3年14組 (文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『高校倫理 新訂版』(実教出版) 『改訂版 政治・経済』(数研出版)	『テオリア最新倫理資料集 新版三訂』(第一学習社), 『2022 大学共通テスト 倫理重要問題集』(実教出版), 『2021 新政治・経済資料 三訂版』(実教出版), 『2022 大学入学共通テスト 政治・経済重要問題集』 (実教出版)

1. 学習の目標

人間尊重と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己確立を目指し、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。民主主義の本質について理解を深めるとともに、理論的・体系的に理解し、現代の政治、経済、国際関係などについて客観的に捉える。これらを踏まえて現代の諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民としての必要な能力と態度を身につける。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
思想に対する関心や、意欲を高めることができたか。意欲的に学習課題に取り組んでいる。 現代の政治、経済、国際関係に対して関心を高めていくとともに、意欲的に課題を追究し、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進を図るため客観的に考察しようとしている。	取り上げた先哲を、歴史的状況の中で理解することができている。 現代の政治、経済、国際関係に関する諸課題を発見し、その本質や特質、さらには望ましい解決の在り方について広い視野に立ち、多面的・多角的に考察するとともに、様々な立場を踏まえて公正な判断をしている。	学習の中で追求し、考察した過程や結果について、適切に表現する方法を身につけることができている。 現代の政治、経済、国際関係に関する諸資料を様々なメディアにより収集し、有用な情報を主体的に選択・活用するとともに、それを追究していく過程や結果について様々な方法を駆使して適切に表現している。	政治・経済・社会・生活など様々な観点から歴史的な事象を理解し、その知識を身につけることができている。 現代の政治、経済、国際関係に関する諸資料を様々なメディアにより収集し、有用な情報を主体的に選択・活用するとともに、それを追究していく過程や結果について様々な方法を駆使して適切に表現している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	社会と個人 人間への新たな問い	・社会の中の個人の主体性についての思想を理解する ・第二次世界大戦が終結し、核兵器による破滅の危機や地球規模の環境破壊など、20世紀には新たな問題が次々と浮上した。そうしたなか誕生した、近代の人間中心主義を根本的に反省し、改めて人間の現実をみつめなおした思想を理解する。	定期試験 提出物
	5	社会参加と幸福	・20世紀に入り、人間中心主義的な世界観の転換期を迎え、新たな人間観を再構築していくという大きな流れを理解する。 具体的には、精神分析学、構造主義、フランクフルト学派を学んでいく。	
	6	社会参加と幸福	・20世紀になると、生命への畏敬を取り戻し、すべてを同胞として連帯し、共生していく社会を目指す思想が現れたことを把握し、人や生命が互いに幸福であるということはどういうことなのかをガンジーの思想やマザー＝テレサの行動などから考える。	

	7	中国思想	<ul style="list-style-type: none"> 中国思想の展開とその広がりについて学ぶ。 中国先達達の生き方・考え方を手掛かりに、自分の人生への関心を高めてゆく。 	
2	9	近世日本の思想 西洋思想の受容と展開	<ul style="list-style-type: none"> 2年次の既習事項を踏まえて、封建社会の思想として受容されてきた、儒教、朱子学、陽明学、国学について学び、当時の社会にどのように利用されていたかを理解する。 幕末には洋学の影響も見られたことを理解する。 啓蒙思想家の台頭で、いわゆる文明開化の方向へ日本が導かれ、自由民権運動への多大な影響を残したことを理解する。 明治末から昭和にかけて、独自の思想や学問が形成された西洋思想の上に東洋思想を導入した独自の思想や、民俗学などの新しい学問分野など多岐にわたる思想を学ぶ。また、満州事変を契機とした国家主義の影響の強まりや、社会主義・自由主義的思想を学ぶ。これらを通じて、自己の進むべき道について考察できる思考力を養う。 	定期試験 提出物
	10	国民経済と国際経済 民主政治の基本原則と日本 国憲法 現代の国際政治と日本	<ul style="list-style-type: none"> 近代国際社会の成立後、国際分業が進み近代的金融制度が国際的に定着し外国為替手形で行われていることを理解する。 基本的人権の内容、新しい人権の内容に触れ、過去の判例を用いながら理解を深める。 55年体制など、戦後の政党の動向を見ながら、現代の日本の政治についても概観し、理解する。 選挙制度の種類や特徴に触れ、民主主義における国民の大切な権利である参政権を公正なものとするための施策についても思いを巡らせる。また、18歳選挙権についての議論も展開する。 人種、民族問題と国際紛争などを学び、国際社会において日本の担う役割について意識しながら考察する。 	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学Ⅱ	3	高校3年1～6組 (文系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学Ⅰ 改訂版』(数研出版), 『数学Ⅱ 改訂版』(数研出版), 『数学A 改訂版』(数研出版), 『数学B 改訂版』(数研出版)	『ニューステージ数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B 受験編』(数研出版)

1. 学習の目標

数学Ⅰ, Ⅱ, A, Bの内容の考えについて理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに, それらを活用できるようにする。基礎学力到達度テストや大学入学共通テストに向けての問題演習を行い, 実践力を向上する。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して, 数学Ⅰ, Ⅱ, A, Bにおける考え方や体系に関心をもつとともに, 数学のよさを認識し, それらを事象の考察に進んで活用している。	数学的活動を通して, 数学Ⅰ, Ⅱ, A, Bの考えにおける見方や考え方を身に付け, 事象を数学的にとらえ, 論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えている。	数学Ⅰ, Ⅱ, A, Bの考えにおいて, 事象を数学的に考察し, 処理する方法や表現の仕方, 推論の方法を身に付け, よりよく問題を解決している。	数学Ⅰ, Ⅱ, A, Bの考えにおける基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	数と式 場合の数と確率 2次関数	基礎学力到達度テスト(4月)対策演習 1. 式の計算(1) 2. 式の計算(2) 3. 1次不等式 4. 集合 5. 命題と論証 6. 2次関数 7. 2次関数の最大・最小	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	5	図形と計量 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数と対数関数 微分法と積分法	8. 2次方程式と2次不等式 9. 三角比の基本 10. 三角比と図形(1) 11. 三角比と図形(2) 24. 式と証明 25. 複素数と方程式(1) 26. 複素数と方程式(2) 27. 点・直線・円 28. 曲線と直線 29. 軌跡と領域 30. 三角関数(1) 31. 三角関数(2) 32. 指数関数 33. 対数関数 34. 導関数と接線 35. 関数の値の変化, 最大・最小 36. 微分法の応用 37. 不定積分・定積分 38. 面積 ※単元順は都合により変更される場合があります。 (CHECK問題を中心に扱う)	
	6		上記単元の反復練習① (STEP問題を中心に扱う)	

	7		上記単元の反復練習② (STEP 問題を中心に扱う)	定期試験
2	9		基礎学力到達度テスト対策演習	定期試験
	10		問題演習等	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学Ⅲ	5	高校3年7～11組(理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学Ⅲ』(数研出版), 『数学A』(数研出版), 『数学B』(数研出版)	『マスグレード 改訂版 数学Ⅲ』(啓林館), 『はぎ取り式練習ドリル 数学Ⅲ 標準編』(数研出版), 『ニューステージ数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B 受験編』(数研出版)

1. 学習の目標

微分法, 積分法の応用の応用について理解し, 基本的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに, 数学的な見方や考え方の効用を認識できるようにする。
また, 大学入試頻出問題の演習を通して, 基礎学力到達度テスト等に向けての学力の向上を図るようにする。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して数学的な味方や考え方の効用を認識し考察に活用している。 多くの自然現象の理解・科学技術の基礎に微積分がいかに重要か, を理解している。	数学的な見方や考え方を身につけ, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えている。	対象となる事柄を数学的に考察し, 表現や処理の方法や推論の手順を身につけ問題を解決できている。	基本的な概念, 原理, 法則, および用語・記号などの意味を理解し, 基礎的な知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第5章(数Ⅲ)	基礎学力到達度テスト対策授業 指数関数・対数関数の微分公式	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	5	場合の数と確率	積・商・合成関数・逆関数・媒介変数の微分公式 14. 場合の数・順列(1) 15. 順列(2)・組合せ 16. 確率(1) 17. 確率(2)	
	6	第7章の一部(数Ⅲ) 第6章(数Ⅲ) 図形の性質	三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分 接線と法線, 関数の最大・最小, 関数のグラフ, 速度と加速度, 近似式 18. 平面図形(1) 19. 平面図形(2) 20. 空間図形	
	7	整数の性質	21. 整数の性質(1) 22. 整数の性質(2) 23. 整数の性質(3)	
2	9	第7章(数Ⅲ) 平面上のベクトル 空間のベクトル	不定積分・定積分の置換積分, 部分積分, 面積, 体積 39. ベクトルの基本 40. 平面ベクトルと図形 41. 空間ベクトルと図形	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
10	数列	42. 等差数列・等比数列 43. 種々の数列 44. 漸化式と数列 45. 数学的帰納法, 数列の応用 大学入試対策演習や基礎学力到達度テスト対策(9月の始め)を含める		

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学Ⅲ	5	高校3年13組 (理系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『改訂版 数学Ⅲ』(数研出版)	『マスグレード 改訂版 数学Ⅲ』(啓林館), 『フォーカスゴールド 数学Ⅲ』(啓林館), 『オリジナル・スタンダード数学演習Ⅲ 受験編』(数研出版)

1. 学習の目標

複素数平面, 式と曲線, 関数, 極限, 微分法とその応用, 積分法, 積分法の応用について理解し, 基本的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。数学Ⅲの発展的問題にふれ, 大学入試の過去問題を通して, 難関私大や国公立2次対応の記述力を高めるようにする。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して数学的な見方や考え方の良さを認識し考察に活用している。	数学的な見方や考え方を身につけ, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えている。	対象となる事柄を数学的に考察し, 表現あるいは処理の仕方や推論の方法を身につけ問題を解決できている。	基本的な概念, 原理, 法則, もしくは, 用語・記号などの意味を理解し, 基礎的な知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	7章 積分法 2節 定積分 7. 定積分の部分積分法 8. 定積分の種々の問題 8章 積分法の応用 1. 面積 2. 体積 3. 曲線の長さ 4. 速度と道のり	定積分の部分積分法 定積分で表された関数, 定積分と和の極限, 定積分と不等式 曲線 $y=f(x)$ で定まる図形の面積, 曲線 $x=g(y)$ で定まる図形の面積, 曲線で囲まれた図形の面積 媒介変数表示と面積 定積分と体積, 回転体の体積, 一般の回転体の体積 媒介変数表示された曲線の長さ, 曲線 $y=f(x)$ の長さ 直線上を運動する点の道のり, 平面上を運動する点の道のり 微分方程式	授業への取り組み 定期試験 提出物
	5	入試問題演習	『オリジナル・スタンダード数学演習Ⅲ』を用いた問題演習 I. 複素数平面 1. 複素数の計算 2. 複素数と図形(1) 3. 複素数と図形(2) II. 式と曲線 5. 2次曲線 6. 媒介変数表示 7. 極座標と極方程式 III. 関数 9. 分数関数・無理関数 10. 関数の性質 IV. 極限 12. 数列の極限 13. 無限級数	

	6	入試問題演習	14. 漸化式と極限(1) 15. 漸化式と極限(2) 16. 関数の極限 17. 関数の連続性 V. 微分法とその応用 19. 導関数 20. 接線・法線 21. 関数の値の変化 22. 最大・最小	
	7	入試問題演習	23. 方程式への応用 24. 不等式への応用 25. 平均値の定理・速度	
	9	入試問題演習	VI. 積分法 27. 不定積分 28. 定積分 29. 定積分で表された関数(1) 30. 定積分で表された関数(2) 31. 定積分と級数 32. 定積分と不等式	
2	10	入試問題演習	VII. 積分法の応用 34. 面積(1) 35. 面積(2) 36. 体積 37. 種々の量の計算 (基本問題, A問題を中心に扱う) I. 複素数平面 ~ VII. 積分の応用 ※反復練習 (B問題を中心に扱う) 総合演習 4. 演習問題(1) 8. 演習問題(2) 11. 演習問題(3) 18. 演習問題(4) 26. 演習問題(5) 33. 演習問題(6) 38. 演習問題(7) これらから問題を選択し, 演習(順不同)	
	11	入試問題演習		

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学Ⅲ	5	高校3年14組 (文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『改訂版 数学Ⅲ』(数研出版)	『マスグレード 改訂版 数学Ⅲ』(啓林館), 『フォーカスゴールド 数学Ⅲ』(啓林館), 『オリジナル・スタンダード数学演習Ⅲ 受験編』(数研出版)

1. 学習の目標

複素数平面, 式と曲線, 関数, 極限, 微分法とその応用, 積分法, 積分法の応用について理解し, 基本的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。数学Ⅲの発展的問題にふれ, 大学入試の過去問題を通して, 難関私大や国公立2次対応の記述力を高めるようにする。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して数学的な見方や考え方の良さを認識し考察に活用しようとしている。	数学的な見方や考え方を身につけ, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えている。	対象となる事柄を数学的に考察し, 表現あるいは処理の仕方や推論の方法を身につけ問題を解決している。	基本的な概念, 原理, 法則, もしくは, 用語・記号などの意味を理解し, 基礎的な知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	7章 積分法 2節 定積分 7. 定積分の部分積分法 8. 定積分の種々の問題 8章 積分法の応用 1. 面積 2. 体積 3. 曲線の長さ 4. 速度と道のり	定積分の部分積分法 定積分で表された関数, 定積分と和の極限, 定積分と不等式 曲線 $y=f(x)$ で定まる図形の面積, 曲線 $x=g(y)$ で定まる図形の面積, 曲線で囲まれた図形の面積 媒介変数表示と面積 定積分と体積, 回転体の体積, 一般の回転体の体積 媒介変数表示された曲線の長さ, 曲線 $y=f(x)$ の長さ 直線上を運動する点の道のり, 平面上を運動する点の道のり 微分方程式	授業への取り組み 定期試験 提出物
	5	入試問題演習	『オリジナル・スタンダード数学演習Ⅲ』を用いた問題演習 I. 複素数平面 1. 複素数の計算 2. 複素数と図形(1) 3. 複素数と図形(2) II. 式と曲線 5. 2次曲線 6. 媒介変数表示 7. 極座標と極方程式 III. 関数 9. 分数関数・無理関数 10. 関数の性質 IV. 極限 12. 数列の極限 13. 無限級数	

	6	入試問題演習	14. 漸化式と極限(1) 15. 漸化式と極限(2) 16. 関数の極限 17. 関数の連続性 V. 微分法とその応用 19. 導関数 20. 接線・法線 21. 関数の値の変化 22. 最大・最小	
	7	入試問題演習	23. 方程式への応用 24. 不等式への応用 25. 平均値の定理・速度	
2	9	入試問題演習	VI. 積分法 27. 不定積分 28. 定積分 29. 定積分で表された関数(1) 30. 定積分で表された関数(2) 31. 定積分と級数 32. 定積分と不等式	授業への取り組み 定期試験 提出物
	10	入試問題演習	VII. 積分法の応用 34. 面積(1) 35. 面積(2) 36. 体積 37. 種々の量の計算 (基本問題, A問題を中心に扱う) I. 複素数平面 ~ VII. 積分の応用 ※反復練習 (B問題を中心に扱う) 総合演習 4. 演習問題(1) 8. 演習問題(2) 11. 演習問題(3) 18. 演習問題(4) 26. 演習問題(5) 33. 演習問題(6) 38. 演習問題(7) これらから問題を選択し, 演習(順不同)	
	11	入試問題演習		

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学特講Ⅰ	3	高校3年1～6組 (文系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学Ⅰ 改訂版』(数研出版), 『数学Ⅱ 改訂版』(数研出版), 『数学A 改訂版』(数研出版), 『数学B 改訂版』(数研出版)	『ニューステージ数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B 受験編』(数研出版)

1. 学習の目標

数学Ⅰ, Ⅱ, A, Bの内容の考えについて理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに, それらを活用できるようにする。基礎学力到達度テストや大学入学共通テストに向けての問題演習を行い, 実践力を向上する。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して, 数学Ⅰ, Ⅱ, A, Bにおける考え方や体系に関心をもつとともに, 数学のよさを認識し, それらを事象の考察に進んで活用している。	数学的活動を通して, 数学Ⅰ, Ⅱ, A, Bの考えにおける見方や考え方を身に付け, 事象を数学的にとらえ, 論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えている。	数学Ⅰ, Ⅱ, A, Bの考えにおいて, 事象を数学的に考察し, 処理する方法や表現の仕方, 推論の方法を身に付け, よりよく問題を解決している。	数学Ⅰ, Ⅱ, A, Bの考えにおける基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	データの分析 場合の数と確率 図形の性質	12. データの代表値と散らばり 13. データの相関 14. 場合の数・順列(1) 15. 順列(2)・組合せ 16. 確率(1) 17. 確率(2) 18. 平面図形(1) 19. 平面図形(2) 20. 空間図形	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	5	整数の性質 微分法と積分法	21. 整数の性質(1) 22. 整数の性質(2) 23. 整数の性質(3) 34. 導関数と接線 35. 関数の値の変化, 最大・最小 36. 微分法の実用 37. 不定積分・定積分 38. 面積	
	6	平面上のベクトル 空間のベクトル 数列	39. ベクトルの基本 40. 平面ベクトルと図形 41. 空間ベクトルと図形 42. 等差数列・等比数列 43. 種々の数列 44. 漸化式と数列 ※単元順は都合により変更される場合があります。 (CHECK問題を中心に扱う)	
	7		上記単元の反復練習(STEP問題を中心に扱う)	

2	9		基礎学力到達度テストまで対策プリント演習	定期試験
	10		問題演習等	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学特講 I	3	高校3年7～11組(理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学Ⅰ』(数研出版), 『数学Ⅱ』(数研出版)	『ニューステージ数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B 受験編』(数研出版)

1. 学習の目標

数学Ⅰ, Ⅱの内容の考えについて理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに, それらを活用できるようにする。基礎学力到達度テストや大学入学共通テストに向けての問題演習をする。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して, 数学Ⅰ, Ⅱにおける考え方や体系に関心をもつとともに, 数学のよさを認識し, それらを事象の考察に進んで活用している。	数学的活動を通して, 数学Ⅰ, Ⅱの考えにおける見方や考え方を身に付け, 事象を数学的にとらえ, 論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えている。	数学Ⅰ, Ⅱの考えにおいて, 事象を数学的に考察し, 処理する方法や表現の仕方, 推論の方法を身に付け, よりよく問題を解決している。	数学Ⅰ, Ⅱの考えにおける基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	総合演習 数と式	基礎学力到達度テスト等入試対策 1. 式の計算(1) 2. 式の計算(2) 3. 1次不等式	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	5	集合と命題 2次関数	4. 集合 5. 命題と論証 6. 2次関数 7. 2次関数の最大・最小 8. 2次方程式と2次不等式	
	6	図形と計量 データの分析 式と証明	9. 三角比の基本 10. 三角比と図形(1) 11. 三角比と図形(2) 12. データの代表値と散らばり 13. データの相関 24. 式と証明	
	7	複素数と方程式	25. 複素数と方程式(1) 26. 複素数と方程式(2)	
2	9	図形と方程式 総合演習 三角関数	27. 点・直線・円 28. 曲線と直線 29. 軌跡と領域 基礎学力到達度テスト等入試対策 30. 三角関数(1) 31. 三角関数(2)	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	10	指数関数と対数関数 微分法と積分法	32. 指数関数 33. 対数関数 34. 導関数と接線 35. 関数の値の変化, 最大・最小 36. 微分法の応用 37. 不定積分・定積分 38. 面積	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学特講Ⅱ	5	高校3年13組 (理系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学Ⅰ 改訂版』(数研出版), 『数学Ⅱ 改訂版』(数研出版), 『数学A 改訂版』(数研出版), 『数学B 改訂版』(数研出版)	『スタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編』(数研出版)

1. 学習の目標

過去の入試問題を解き進めることによって、入試に必要な重要事項を再度確認し、大学入学共通テストレベルの問題に対応できる実践力を身に付けることを目標とする。また、大学入試の頻出問題の演習を通じて、難関大学合格への学力を高める。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して、各単元の考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを事象の考察に進んで活用している。	演習において、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるときともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えている。	各単元の事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決している。	各単元の基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、それらを身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	I 数と式 II 関数と方程式・不等式 III 式と証明, 論理	1 式の計算 2 恒等式, 割り算の問題 3 方程式・不等式の解法 4 関数とグラフ 5 最大・最小 6 2次方程式の理論 7 種々の方程式の問題 8 不等式の種々の問題 9 式の値, 二項定理 10 等式・等式の証明 11 集合と論証	定期試験 小テスト 行動観察 提出物
	5	IV 整数の性質 V 場合の数・確率 VI 図形の性質 VII 図形と式	12 数の論理 13 不定方程式 14 整数の種々の問題 16 場合の数, 順列 17 組合せ 18 確率(1) 19 確率(2) 21 図形の性質(1) 22 図形の性質(2) 23 点と直線 24 曲線と直線 25 軌跡と領域 26 領域と最大・最小 27 図形と式の種々の問題	

	6	VIII 三角・指数・対数関数 IX 微分法・積分法 X ベクトル	28 三角比と三角形 29 図形と計量 30 三角関数(1) 31 三角関数(2) 32 指数・対数の計算 33 指数・対数の種々の問題 34 導関数, 接線 35 関数の増減, 極値 36 最大・最小(微分法) 37 方程式・不等式への応用 36 積分の計算 39 定積分で表された関数 40 面積(1) 41 面積(2) 43 ベクトルの基礎 44 ベクトルと内積 45 ベクトルと平面図形(1) 46 ベクトルと平面図形(2) 47 ベクトルと空間図形	
	7	XI 数列	49 等差数列・等比数列	
2	9	XII データの分析	50 種々の数列 51 漸化式と数列 52 数学的帰納法 53 数列の応用 55 データの分析	定期試験 小テスト 行動観察 提出物
	10	総合演習	一般入試に向けた問題演習	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学特講Ⅱ	5	高校3年14組 (文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学Ⅰ 改訂版』(数研出版), 『数学Ⅱ 改訂版』(数研出版), 『数学A 改訂版』(数研出版), 『数学B 改訂版』(数研出版)	『改訂版大学入学共通テスト対策ニューステージ数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B』(数研出版), 『大学入学共通テスト実践問題集数学Ⅰ・A プレノートHalf』(数研出版), 『大学入学共通テスト実践問題集数学Ⅱ・B プレノートHalf』(数研出版)

1. 学習の目標

数学Ⅰ・A, Ⅱ・Bの内容の考えについて理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに, それらを活用できるようにする。大学入学共通テストに向けての実践問題演習を行う。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して, 数学Ⅰ・A, Ⅱ・Bにおける考え方や体系に関心をもつとともに, 数学のよさを認識し, それらを事象の考察に進んで活用しようとしている。	数学的活動を通して, 数学Ⅰ・A, Ⅱ・Bの考えにおける見方や考え方を身に付け, 事象を数学的にとらえ, 論理的に考えとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えている。	数学Ⅰ・A, Ⅱ・Bの考えにおいて, 事象を数学的に考察し, 処理する方法や表現の仕方, 推論の方法を身に付け, よりよく問題を解決している。	数学Ⅰ・A, Ⅱ・Bの考えにおける基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	数学Ⅱ・B演習	数学Ⅰ・A+Ⅱ・Bの内容について, ニューステージのCHECKの問題を自主課題とし, STEPとTRIALの問題を中心に演習をする。 24. 式と証明 25. 複素数と方程式 (1) 26. 複素数と方程式 (2) 27. 点・直線・円 28. 曲線と直線 29. 軌跡と領域 30. 三角関数 (1) 31. 三角関数 (2) 32. 指数関数 33. 対数関数 34. 導関数と接線	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	5	数学Ⅱ・B演習	35. 関数の値の変化, 最大・最小 36. 微分法の実用 37. 不定積分・定積分 38. 面積 39. ベクトルの基本 40. 平面ベクトルと図形 41. 空間ベクトルと図形 42. 等差数列・等比数列 43. 種々の数列 44. 漸化式と数列 45. 数学的帰納法, 数列の実用	

		数学Ⅰ・A演習	1. 式の計算 (1) 2. 式の計算 (2) 3. 1次不等式	
	6	数学Ⅰ・A演習	4. 集合 5. 命題と論証 6. 2次関数 7. 2次関数の最大・最小 8. 2次方程式と2次不等式 9. 三角比の基本 10. 三角比と図形 (1) 11. 三角比と図形 (2) 12. データの代表値と散らばり 13. データの相関 14. 場合の数・順列 (1) 15. 順列 (2)・組合せ 16. 確率 (1) 17. 確率 (2) 18. 平面図形 (1) 19. 平面図形 (2)	
	7	数学Ⅰ・A演習	20. 空間図形	
2	9	数学Ⅰ・A演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・Bの 実戦問題演習	21. 整数の性質 (1) 22. 整数の性質 (2) 23. 整数の性質 (3) 実戦問題演習 8. 式と証明, 複素数と方程式 9. 図形と方程式 10. 三角関数 11. 指数関数と対数関数 12. 微分法と積分法 13. ベクトル 14. 数列 1. 数と式, 集合と命題 2. 2次関数 3. 図形と計量 4. データの分析 5. 場合の数と集合 6. 図形の性質 7. 整数の性質	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	10	数学Ⅰ・A+Ⅱ・Bの 実戦問題演習	大学入学共通テスト実践問題集「数学Ⅰ・A+Ⅱ・B プレノート Half」を活用した大学入学共通テストの 実践演習	
	11	数学Ⅰ・A+Ⅱ・Bの 実戦問題演習	大学入学共通テスト実践問題集「数学Ⅰ・A+Ⅱ・B プレノート Half」を活用した大学入学共通テストの 実践演習	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学特講Ⅲ	4	高校3年14組 (文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学Ⅰ 改訂版』(数研出版), 『数学Ⅱ 改訂版』(数研出版), 『数学A 改訂版』(数研出版), 『数学B 改訂版』(数研出版)	『スタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編』(数研出版)

1. 学習の目標

過去の入試問題を解き進めることによって、入試に必要な重要事項を再度確認し、大学入学共通テストレベルの問題に対応できる実践力を身に付けることを目標とする。また、大学入試の頻出問題の演習を通じて、難関大学合格への学力を高める。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して、各単元の考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを事象の考察に進んで活用している。	演習において、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるときともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えている。	各単元の事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決している。	各単元の基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、それらを身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	Ⅰ 数と式 Ⅱ 関数と方程式・不等式 Ⅲ 式と証明, 論理	1 式の計算 2 恒等式, 割り算の問題 3 方程式・不等式の解法 4 関数とグラフ 5 最大・最小 6 2次方程式の理論 7 種々の方程式の問題 8 不等式の種々の問題 9 式の値, 二項定理 10 等式・等式の証明 11 集合と論証	定期試験 小テスト 行動観察 提出物
	5	Ⅳ 整数の性質 Ⅴ 場合の数・確率 Ⅵ 図形の性質 Ⅶ 図形と式	12 数の論理 13 不定方程式 14 整数の種々の問題 16 場合の数, 順列 17 組合せ 18 確率(1) 19 確率(2) 21 図形の性質(1) 22 図形の性質(2) 23 点と直線 24 曲線と直線 25 軌跡と領域 26 領域と最大・最小 27 図形と式の種々の問題	

	6	VIII 三角・指数・対数関数 IX 微分法・積分法 X ベクトル	28 三角比と三角形 29 図形と計量 30 三角関数(1) 31 三角関数(2) 32 指数・対数の計算 33 指数・対数の種々の問題 34 導関数, 接線 35 関数の増減, 極値 36 最大・最小(微分法) 37 方程式・不等式への応用 36 積分の計算 39 定積分で表された関数 40 面積(1) 41 面積(2) 43 ベクトルの基礎 44 ベクトルと内積 45 ベクトルと平面図形(1) 46 ベクトルと平面図形(2) 47 ベクトルと空間図形	
	7	XI 数列	49 等差数列・等比数列	
2	9	XII データの分析	50 種々の数列 51 漸化式と数列 52 数学的帰納法 53 数列の応用 55 データの分析	定期試験 小テスト 行動観察 提出物
	10	総合演習	一般入試に向けた問題演習	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	物理	4	高校3年7組・10組 (理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『総合物理Ⅰ』(数研出版) 『総合物理Ⅱ』(数研出版)	『センサー総合物理』(啓林館), 『改訂版大学入試センター試験対策 チェック&演習物理』(数研出版)

1. 学習の目標

物理現象を理解し、数学的な用法を用いて表すことができるようになる。物理事象の問題を理解し、解法を導き出す能力を身につけるようにする。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
積極的に授業に参加している。	物理的な思考を身につけている。	物理現象を、数式を用いて表し、問題を解けている。	物理現象を理解し、物理的な思考を身に付け自分の言葉で現象の理論を説明ができている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	電流	直流回路 半導体	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
		電流と磁場	磁場 電流のつくる磁場 電流が磁場から受ける力 ローレンツ力	
	5	電磁誘導と電磁波	電磁誘導の法則 自己誘導と相互誘導 交流の発生 交流回路 電磁波	
	6	電子と光	電子 光の粒子性 X線 粒子の波動性	
2	7	原子と原子核	原子の構造とエネルギー順位 原子核 放射線とその性質 核反応と核エネルギー 素粒子	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	9	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	
	10	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	
	11	問題演習	大学入学共通テストや私大、国公立大の過去問等の問題演習	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	物理	4	高校3年13組 (理系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『総合物理Ⅰ』(数研出版) 『総合物理Ⅱ』(数研出版)	『センサー総合物理』(啓林館), 『改訂版 大学入試センター試験対策 チェック&演習 物理』(数研出版)

1. 学習の目標

物理現象を理解し、数学的な用法を用いて表すことが出来るようになる。物理事象の問題を理解し、解法を導き出す能力を身につける。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
積極的に授業に参加している。	物理的な思考を身につけている。	物理現象を数式を用いて表し、問題を解けている。	物理現象を理解し、物理的な思考を身に付け自分の言葉で現象の理論を説明できている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	電子と光	電子 光の粒子性 X線 粒子の波動性	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	5	原子と原子核	原子の構造とエネルギー順位 原子核 放射線とその性質 核反応と核エネルギー 素粒子	
	6	問題演習	大学入学共通テストや私大, 国公立大の過去問等の問題演習	
	7	問題演習	大学入学共通テストや私大, 国公立大の過去問等の問題演習	
2	9	問題演習	大学入学共通テストや私大, 国公立大の過去問等の問題演習	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	10	問題演習	大学入学共通テストや私大, 国公立大の過去問等の問題演習	
	11	問題演習	大学入学共通テストや私大, 国公立大の過去問等の問題演習	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	物理	3	高校3年14組 (文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『総合物理Ⅰ』(数研出版) 『総合物理Ⅱ』(数研出版)	『センサー総合物理』(啓林館), 『改訂版大学入試センター試験対策 チェック&演習物理』(数研出版)

1. 学習の目標

物理現象を理解し、数学的な用法を用いて表すことができるようになる。物理事象の問題を理解し、解法を導き出す能力を身につけるようにする。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
積極的に授業に参加している。	物理的な思考を身につけている。	物理現象を数式を用いて表し、問題を解けている。	物理現象を理解し、物理的な思考を身に付け自分の言葉で現象の理論を説明ができている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	電流と磁場	磁場 電流のつくる磁場 電流が磁場から受ける力 ローレンツ力	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	5	電磁誘導と電磁波	電磁誘導の法則 自己誘導と相互誘導 交流の発生 交流回路 電磁波	
	6	電子と光	電子 光の粒子性 X線 粒子の波動性	
	7	原子と原子核	原子の構造とエネルギー順位 原子核 放射線とその性質 核反応と核エネルギー 素粒子	
2	9	問題演習	大学入学共通テストや私大, 国公立大の過去問等の問題演習	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	10	問題演習	大学入学共通テストや私大, 国公立大の過去問等の問題演習	
	11	問題演習	大学入学共通テストや私大, 国公立大の過去問等の問題演習	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	化学	4	高校3年8～11組(理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『改訂 高等学校 化学』(第一学習社)	『セミナー化学基礎+化学』(第一学習社) 『フォトサイエンス化学図録』(数研出版) 『大学入学共通テストチェック&演習化学』(数研出版)

1. 学習の目標

化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養うようにする。化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身に付ける。物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活と関連付けて考察できるようにする。化学についての応用的・発展的な課題を設定し、観察・実験などを通して研究を行い、化学的に探求する方法や問題解決の能力を身に付けるようにする。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
化学的な現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求し科学的な態度を身に付けている。	化学的な現象の中に問題を発見し、論理的・分析的に考察できている。	化学的な現象に関する観察や結果から導いた考えを的確に表現することができている。	化学的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第IV章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴と分類 第2節 脂肪族炭化水素	第1節 炭化水素や、官能基をもつ有機化合物の性質や反応性とその構造に特徴づけられることを学習する。 構造式からその性質や反応性を考察、判断する方法 構造異性体の関係性を学習する。 代表的な官能基の性質に対する知識を学習する。 第2節 脂肪族炭化水素の性質や反応性を学習する。 飽和炭化水素と不飽和炭化水素の反応性の相違を学習する。	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	5	第3節 酸素を含む脂肪族化合物	第3節 アルコールとエーテル、アルデヒドとケトン、カルボン酸とエステルそれぞれの関連性について学習する。	
	6	第4節 芳香族化合物	第4節 以下の芳香族化合物について、性質や反応性の相違を学習し、また脂肪族化合物との相違についても学習する ① 芳香族炭化水素 ② フェノール類、芳香族カルボン酸 ③ 芳香族アミンとそれに付随する化合物 ④ 性質の相違を利用した分離方法	
	7	第V章 高分子化合物 第1節 天然高分子化合物(糖類)	第1節 単糖、二糖、多糖の性質や用途を学習する。	

2	9	基礎学力到達度対策演習 一般入試基礎対策演習	知識力, 思考力, 問題解決能力の向上を目的として, 過去の入試問題を用いて理論化学の分野を中心に 学習する。	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	10	第V章 高分子化合物 第2節 天然高分子化合物 (タンパク質) 第3節 合成高分子化合物	第2節 タンパク質とそれを構成するアミノ酸の性質を 学習する。 第3節 合成繊維, 合成樹脂, ゴムの用途や性質を学習する。	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	化学	4	高校3年13組(理系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『改訂 高等学校 化学基礎』(第一学習社) 『改訂 高等学校 化学』(第一学習社)	『セミナー化学基礎+化学』(第一学習社) 『フォトサイエンス化学図録』(数研出版) 『大学入学共通テストチェック&演習化学基礎』(数研出版) 『大学入学共通テストチェック&演習化学』(数研出版) 『2022 化学重要問題集』(数研出版)

1. 学習の目標

化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養うようにする。化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身につける。物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活と関連付けて考察できるようにする。化学についての応用的・発展的な課題を設定し、観察・実験などを通して研究を行い、化学的に探求する方法や問題解決の能力を身に付けるようにする。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
化学的な現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求し科学的な態度を身に付けている。	化学的な現象の中に問題を発見し、論理的・分析的に考察できている。	化学的な現象に関する観察や結果から導いた考えを的確に表現ができている。	化学的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第V章 高分子化合物 第1節 天然高分子化合物(糖類)	第1節 単糖、二糖、多糖の性質や用途を学習する。	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
		第2節 天然高分子化合物(タンパク質)	第2節 タンパク質とそれを構成するアミノ酸の性質を学習する	
	5	第3節 合成高分子化合物	第3節 合成繊維、合成樹脂、ゴムの用途や性質を学習する。	
		入試対策演習Ⅰ(化学基礎)	知識力、思考力、問題解決能力の向上を目的として、過去の入試問題を用いて学習する。(基礎理論分野)	
2	6	入試対策演習Ⅱ(理論化学)	知識力、思考力、問題解決能力の向上を目的として、過去の入試問題を用いて学習する。(化学理論分野)	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	7	入試対策演習Ⅲ(無機化学)	知識力、思考力、問題解決能力の向上を目的として、過去の入試問題を用いて学習する。(化学無機分野)	
	9	入試対策演習Ⅳ(有機化学)	知識力、思考力、問題解決能力の向上を目的として、過去の入試問題を用いて学習する。(化学有機分野)	
	10	入試対策演習Ⅴ(総合分野)	知識力、思考力、問題解決能力の向上を目的として、過去の入試問題を用いて総合学習する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

令和4年度 理科 シラバス (高等学校)

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	化学	3	高校3年14組(文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『改訂 高等学校 化学基礎』(第一学習社) 『改訂 高等学校 化学』(第一学習社)	『セミナー化学基礎+化学』(第一学習社) 『フォトサイエンス化学図録』(数研出版) 『大学入学共通テストチェック&演習化学基礎』(数研出版) 『大学入学共通テストチェック&演習化学』(数研出版) 『2022 化学重要問題集』(数研出版)

1. 学習の目標

化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養うようにする。化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身につける。物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活と関連付けて考察できるようにする。化学についての応用的・発展的な課題を設定し、観察・実験などを通して研究を行い、化学的に探求する方法や問題解決の能力を身につけることができるようにする。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
化学的な現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求し科学的な態度を身につけている。	化学的な現象の中に問題を発見し、論理的・分析的に考察ができています。	化学的な現象に関する観察や結果から導いた考えを的確に表現している。	化学的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第IV章 有機化合物 第3節 酸素を含む脂肪族化合物	第3節 アルコールとエーテル、アルデヒドとケトン、カルボン酸とエステルのそれぞれの関連性について学習する。	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	5	第4節 芳香族化合物	第4節 以下の芳香族化合物について、性質や反応性の相違を学習し、また脂肪族化合物との相違についても学習する ① 芳香族炭化水素 ② フェノール類、芳香族カルボン酸 ③ 芳香族アミンとそれに付随する化合物 ④ 性質の相違を利用した分離方法	
	6	第V章 高分子化合物 第1節 天然高分子化合物(糖類) 第2節 天然高分子化合物(タンパク質)	第1節 単糖、二糖、多糖の性質や用途を学習する。 第2節 タンパク質とそれを構成するアミノ酸の性質を学習する。	
	7	第3節 合成高分子化合物	第3節 合成繊維、合成樹脂、ゴムの用途や性質を学習する。	
2	9	入試対策演習Ⅰ(理論化学) 入試対策演習Ⅱ(無機化学)	知識力、思考力、問題解決能力の向上を目的として、過去の入試問題を用いて学習する。	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	10	入試対策演習Ⅲ(有機化学) 入試対策演習Ⅳ(総合分野)	知識力、思考力、問題解決能力の向上を目的として、過去の入試問題を用いて学習する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	生物	4	高校3年7～9組, 11組(理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『改訂 生物』(東京書籍)	<ul style="list-style-type: none"> ・『セミナー 生物+生物基礎』(第一学習社) ・『スクエア最新図説生物』(第一学習社)

1. 学習の目標

環境の変化に生物が反応していることについて、生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解し、生物の個体群と群集及び生態系について、それらの構造や変化の仕組みを理解し、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。生物の進化の過程とその仕組み及び生物の系統について、生物界の多様性と系統を理解させ、進化についての考え方を身に付けるようにする。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
・生物や生命現象に関心を持ち、主体的に探求する姿勢を身につけている。	・生物や生命現象を実証的・論理的に考え、科学的な判断ができています。	・生物や生命現象に関する観察・実験技術を身につけて、結果から出した考えを的確に表現することができています。	・生物や生命現象について基本的な概念や原理法則についての理解を深め、知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	3編 生殖と発生 4章 植物の発生 4編 生物の環境応答 1章 動物の刺激の受容と反応	<ul style="list-style-type: none"> ・被子植物の生殖と胚発生・被子植物の器官分化について学習する。 ・細刺激の受容から反応への情報の流れ、神経系を構成する細胞、興奮、刺激の受容と感覚、感覚器、中枢神経系、効果器について学習する。 	定期試験 授業へ取り組み
	5	2章 動物の行動 3章 植物の環境応答	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の生得的要素とその後の修正、神経系の働きと行動の関係について学習する。 ・環境要因による植物の反応(発芽・栄養成長・機構の開閉・花芽形成)、老化と落葉、ストレスに対する応答について学習する。 	
	6	5編 生態と環境 1章 生物の多様性と生態学 2章 個体群と生物群集 3章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ 4章 生態系と生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の多様性の現状について学習する ・個体群、個体間や種間の相互作用、生物群集の成り立ちと多種の共存について学習する。 ・食物網と物質生産、生態系の構造とエネルギーの流れについて学習する。 ・生物多様性の意味、減少させる要因、保全と復元について学習する。 	
	7	6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の変遷 2章 進化のしくみ 3章 生物の系統	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の起源、地球環境の変化と真核生物の誕生、生物の変遷、人類の変遷について学習する。 ・進化、変異とその起源、遺伝子頻度、種分化について学習する。 ・系統、3ドメイン、5界説の生き物について学習する。 	

2	9	基礎学力テストの範囲 生物基礎・生物全範囲	・基礎学力到達度テストに向けた問題演習	定期試験 授業への取り組み
	10	問題演習 I	・問題演習 I	
	11	問題演習 II	・問題演習 II	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	生物	4	3年13組 (理系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『生物 改定版』(東京書籍)	『セミナー 生物+生物基礎』(第一学習社), 『スクエア最新図説生物』(第一学習社), 『生物単元別問題集』(駿台文庫)

1. 学習の目標

<p>環境の変化に生物が反応していることについて、生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解する。また、生物の個体群と群集及び生態系について、それらの構造や変化の仕組みを理解し、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。生物の進化の過程とその仕組み及び生物の系統について、生物界の多様性と系統を理解し、進化についての考え方を身に付ける。</p>

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
生物や生命現象に関心を持ち、主体的に探求する姿勢を身につけている。	生物や生命現象を実証的・論理的に考え、科学的な判断をしている。	生物や生命現象に関する観察・実験技術を身につけて、結果から出した考えを的確に表現している。	生物や生命現象について基本的な概念や原理法則についての理解を深め、知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	5編 生態と環境 2章 個体群と生物群集	個体群、個体間や種間の相互作用、生物群集の成り立ちと多種の共存について学習する。	出席状況 定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト 木1テスト
		3章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ 4章 生態系と生物多様性	食物網と物質生産、生態系の構造とエネルギーの流れについて学習する。 生物多様性の意味、減少させる要因、保全と復元についてについて学習する。	
	5	6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の変遷 2章 進化のしくみ 3章 生物の系統	生命の起源、地球環境の変化と真核生物の誕生、生物の変遷、人類の変遷について学習する。 進化、変異とその起源、遺伝子頻度、種分化について学習する。 系統、3ドメイン、5界説の生き物について学習する。	
2	6	生物基礎・生物全範囲	センター試験・二次試験に向けた問題演習	出席状況 定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト 木1テスト
	9	生物基礎・生物全範囲	センター試験・二次試験に向けた問題演習	
	10	生物基礎・生物全範囲	センター試験・二次試験に向けた問題演習	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	生物	3	高校3年14組 (文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『生物 改定版』(東京書籍)	『セミナー 生物+生物基礎』(第一学習社), 『スクエア最新図説生物』(第一学習社), 『生物単元別問題集』(駿台文庫)

1. 学習の目標

環境の変化に生物が反応していることについて、生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解する。また、生物の個体群と群集及び生態系について、それらの構造や変化の仕組みを理解し、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。生物の進化の過程とその仕組み及び生物の系統について、生物界の多様性と系統を理解し、進化についての考え方を身に付けるようにする。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
生物や生命現象に関心を持ち、主体的に探求する姿勢を身につけている。	生物や生命現象を実証的・論理的に考え、科学的な判断をしている。	生物や生命現象に関する観察・実験技術を身につけて、結果から出した考えを的確に表現している。	生物や生命現象について基本的な概念や原理法則についての理解を深め、知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	4編 生物の環境応答 3章 植物の環境応答	環境要因による植物の反応(発芽・栄養成長・機構の開閉・花芽形成)、老化と落葉、ストレスに対する応答について学習する。	出席状況 定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	5	5編 生態と環境 1章 生物の多様性と生態学 2章 個体群と生物群集 3章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ 4章 生態系と生物多様性	生物の多様性の現状について学習する。 個体群、個体間や種間の相互作用、生物群集の成り立ちと多種の共存について学習する。 食物網と物質生産、生態系の構造とエネルギーの流れについて学習する。 生物多様性の意味、減少させる要因、保全と復元についてについて学習する。	
	6	6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の変遷 2章 進化のしくみ 3章 生物の系統	生命の起源、地球環境の変化と真核生物の誕生、生物の変遷、人類の変遷について学習する。 進化、変異とその起源、遺伝子頻度、種分化について学習する。 系統、3ドメイン、5界説の生き物について学習する。	
2	9	生物基礎・生物全範囲	センター試験・二次試験に向けた問題演習	出席状況 定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	10	生物基礎・生物全範囲	センター試験・二次試験に向けた問題演習	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	物理研究	2	高校3年7, 10組(理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『総合物理Ⅰ』(数研出版) 『総合物理Ⅱ』(数研出版)	『センサー総合物理』(啓林館), 『改訂版 大学入試センター試験対策 チェック&演習 物理』(数研出版)

1. 学習の目標

センター試験, 国公立大, 難関私大に向けて標準問題, 応用問題を確実に解ける実力を身に付ける。また, 問題整理, 立式, 計算という問題解法の過程をより丁寧に素早く処理できる。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
毎回のレポート提出, 小テストで, 適切な問題の解法ができる。	物理現象を理解し, 物理的な思考を身に付け自分の言葉で現象の理論を説明できる。	物理現象を, 数式を用いて表し, 問題を解ける。	定期試験を中心に, 小テスト, レポートを通して, 応用力を身に付ける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	運動と力	学習計画 ○物理研究演習実施表(初回の授業で配布する)に沿って授業の予習を行い, レポートを授業開始時に提出する。 ○授業の最初に小テストを行う。 ○小テスト後, 演習問題を解き, 解説する。 ○授業進度は物理の進度に応じて随時変更する。 ○大学入学共通テストや私大, 国公立大の過去問等の問題演習を行う。 学習内容 ・運動の表し方 ・落体の運動(放物運動も含む) ・力 ・運動の法則	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	5	運動と力	・大きさのある物体にはたらく力 ・運動量 ・円運動 ・単振動 ・万有引力	
	6	エネルギー 波動	・仕事と力学的エネルギー ・熱と電気とエネルギー ・エネルギーと資源 ・波の性質 ・波の干渉・回折・反射・屈折	
	7	波動	・音波の性質と音源の振動 ・ドップラー効果	

2	9	波動 電気と磁気	<ul style="list-style-type: none"> ・光の性質 ・光の回折と干渉 ・電界と電位 ・コンデンサー ・電流 ・基礎学力到達度に向けた入試問題演習, 及び全体の復習 ・電流と磁界 	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	10	電気と磁気 原子・分子の世界	<ul style="list-style-type: none"> ・電磁誘導 ・交流と電磁波 ・波動性と粒子性 ・電子と物質 	
	11	原子・分子の世界	<ul style="list-style-type: none"> ・原子核と素粒子 ・大学入学共通テストや私大, 国公立大の過去問等の問題演習 	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	化学研究	2	高校3年8～11組(理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『高等学校 化学基礎』(第一学習社), 『高等学校 化学』(第一学習社)	『大学入学共通テストチェック&演習 化学基礎』(数研出版), 『大学入学共通テストチェック&演習 化学』(数研出版)

1. 学習の目標

基礎学力到達度テスト, 他大受験に向けて標準問題, 応用問題を確実に解ける実力を身に付けるようにする
--

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
化学的な現象の中に問題を見出し, 意欲的にそれらを探求し, 科学的な態度を身に付けている。	事象を理論的に考察し, 判断ができています。	化学的な事物の探求法を身に付けている。	基本的な概念・原理・法則を理解し, 知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	化学基礎 第1章 物質の構成と人間生活 1. 化学と人間生活 2. 物質の構成	<ul style="list-style-type: none"> 混合物と純物質, 混合物の分離, 元素, 同素体などの演習問題を行う。 原子の構成, 同位体, 電子配置, 価電子, 周期律, 周期表, イオン, イオンの大きさ, 分子の形成, 構造式, 電子式, 共有結合, 分子間力, 金属結晶などの演習問題を行う。 	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	5	第2章 物質の変化 1. 物質と化学反応式 2. 酸と塩基の反応	<ul style="list-style-type: none"> 原子量, 分子量, 式量, 物質質量, アボガドロ定数, 溶液の濃度, 化学反応式, 量的関係, 諸法則などの演習問題を行う。 酸・塩基, 水の電離と水素イオン濃度, 指示薬とpHの測定, 中和, 塩, 塩の加水分解, 中和滴定, 中和滴定曲線などの演習問題を行う。 	
	6	3. 酸化還元反応 化学 第1章 物質の状態と平衡	<ul style="list-style-type: none"> 酸化・還元, 酸化数, 酸化剤と還元剤, 酸化還元反応式, 金属のイオン化傾向と反応性, 電池, 水溶液の電気分解, 電気分解における量的関係などの演習問題を行う。 気体の体積変化, 状態方程式, 理想気体と実在の気体, 溶解と溶液, 希薄溶液性質, コロイド溶液などの演習問題を行う。 	
	7	第2章 物質の変化と平衡	<ul style="list-style-type: none"> 反応熱, 熱化学方程式, ヘスの法則, 化学反応の速さと濃度・圧力・温度・触媒, 可逆変化, 平衡状態と平衡移動, 平衡定数, 電離平衡などの演習問題を行う。 	

2	9	第3章無機物質	<ul style="list-style-type: none"> ・元素の分類, 水素・酸素とその化合物, 希ガス, ハロゲンとその化合物, 硫黄とその化合物, 窒素・リンとその化合物, 炭素・ケイ素とその化合物などの演習問題を行う。 ・アルカリ金属とその化合物, 2族元素とその化合物, 亜鉛・アルミニウム・スズ・鉛とその化合物の演習問題を行う。 ・遷移元素, 銅とその化合物, 銀とその化合物, 鉄とその化合物, クロム・マンガンとその化合物, 金属イオンの定性分析などの演習問題を行う。 ・基礎学力到達度に向けた入試問題演習および全体の復習を行う。 	授業への取り組み 提出物 定期試験 小テスト
	10	総合問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テスト対策等の問題演習を2学期期末テストまで行う。 	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	生物研究	2	高校3年7～9, 11組 (理系総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『生物基礎』(東京書籍), 『生物』(東京書籍)	『スクエア最新図説生物 neo』(第一学習社), 『入門問題精講3訂版』(旺文社)

1. 学習の目標

生物基礎・生物の内容を総復習し、基礎学力到達度テストやセンター試験、一般入試への実力を養成する。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
生物や、生命現象に関心や探求心を持ち、主体的に探求すると共に、科学的態度を身につけている。	生物や生命現象を実証的・論理的に考え、科学的な判断できている。	生物や生命現象に関する観察・実験の後術を身につけ結果から導き出した考えを的確に表現ができています。	生物や生命現象について基本的な概念や原理法則についての理解を深め、知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	「生物基礎」 第1章 細胞と個体 第2章 代謝	各単元について復習を行う。 ①細胞の構造と働き ②生体膜の構造と働き 体細胞分裂 ④生物体の構造について演習問題を行う。 ⑤酵素 ⑥異化と同化について演習問題を行う	定期試験 小テスト 提出物 授業への取り組み
	5	第3章 遺伝情報とその発現 第6章 体内環境の維持	⑦遺伝子の本体と働き ⑧遺伝子の発現について演習問題を行う。 ⑮体液 ⑯免疫 ⑰腎臓と肝臓 ⑱自律神経系とホルモンについて演習問題を行う。	
	6	第9章 生態と環境 第4章 生殖と発生	⑲個体群 ⑳バイオームと生態系 ㉑生態系とその平衡について演習問題を行う。 ⑩生殖法・減数分裂 ⑪配偶子形成と受精 ⑫発生のしくみについて演習問題を行う。	
	7	第5章 遺伝	⑫遺伝 ⑬遺伝子と染色体 ⑭いろいろな遺伝について演習問題を行う。	
2	9	基礎学範囲 (基礎学前) 生物全範囲 (基礎学後)	基礎学力対策 共通テスト対策問題演習	定期試験 小テスト 提出物 授業への取り組み
	10	生物全範囲	共通テスト対策問題演習	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	理科研究	3	高校3年14組(文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『高等学校 生物基礎』(東京書籍), 『高等学校 化学基礎』(第一学習社)	『センター試験 生物基礎単元別問題集』(駿台文庫) 『大学入学共通テスト対策チェック&演習化学基礎』 (数研出版)

1. 学習の目標

生物基礎・化学基礎の内容を総復習し、共通テストに向けての実力を身につける。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
生物や、生命現象に関心や探求心を持ち、主体的に探求すると主に、科学的態度を身につけている。さらに、化学的な事物・現象に関心や探求心を持ち、意欲的にそれらを探求するとともに、科学的態度を身につけている。	生物や生命現象を実証的・論理的に考え、科学的な判断をする。さらに、化学的な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断している。	生物や生命現象に関する観察・実験の技術を身につけ、結果から導き出した考えを的確に表現することができる。さらに、化学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探求する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現している。	生物や生命現象について基本的な概念や原理法則に付いての理解を深め、知識を身につけている。さらに、観察、実験などを通して化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	共通テスト対策 生物基礎 1 共通テスト対策 化学基礎 1	1. 生物の特徴 生物の構造と機能、細胞とエネルギー、代謝について復習し、演習問題を解く。 2. 遺伝子とその働き 遺伝情報とDNA、遺伝情報よりタンパク質について復習し、演習問題を解く。 第1章 物質の構成と人間生活 §1 化学と人間生活 混合物と純物質、混合物の分離、元素、同素体などの演習問題を行う。 §2 物質の構成 原子の構成、同位体、電子配置、価電子、周期律、周期表、イオン、イオンの大きさ、分子の形成、構造式、電子式、共有結合、分子間力、金属結晶などの演習問題を行う。	定期試験 授業への取り組み 提出物
	5	共通テスト対策 生物基礎 2 共通テスト対策 化学基礎 2	3. 生物の体内環境 体液の恒常性、自律神経とホルモン、免疫機構について復習し、演習問題を解く。 4. 植生の多様性と分布 植生の多様性、バイオーム、生態系について復習し、演習問題を解く。 第2章 物質の変化 §1 物質質量と化学反応式 原子量、分子量、式量、物質質量、アボガドロ定数、溶液の濃度、	

			化学反応式、量的関係、諸法則などの演習問題を行う。	
	6	共通テスト対策 生物基礎 3 共通テスト対策 化学基礎 3	5. 生態系とその保全 生態系における物質の流れ、保全に関する演習問題を解く。 § 2 酸と塩基の反応 酸・塩基、水の電離と水素イオン濃度、指示薬と pH の測定、中和、塩、塩の加水分解、中和滴定、中和滴定曲線などの演習問題を行う。	
2	9	共通テスト対策 生物基礎 4 共通テスト対策 化学基礎 4	6. 共通テストの過去問、演習問題を解く。 § 3 酸化還元反応 酸化・還元、酸化数、酸化剤と還元剤、酸化還元反応式、金属のイオン化傾向と反応性、電池、水溶液の電気分解、電気分解における量的関係などの演習問題を行う。	定期試験 授業への取り組み 提出物
	10	共通テスト対策 生物基礎 5 共通テスト対策 化学基礎 5	共通テストの過去問、演習問題を解く。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
保健体育	体育	3	高校3学年 全クラス

使用教科書	副教材
『アクティブスポーツ2020 (総合版)』(大修館書店)	『新版 健康手帳』(大修館書店)

1. 学習の目標

各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、健康・安全に留意して活動できるようにする。さらに、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通して継続的に運動する態度や能力を獲得する。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
各種目の特性に関心を持ち、自ら選び、自ら学ぶ意欲で生涯スポーツと結びつけ、積極的に参加することができている。	自己の能力・適性や関心に応じた種目選択をし、課題解決のための練習方法等を自ら計画し、実践している。	自己の身体や動きに対する意識・知覚を養い、種目の特性に応じた技能を身につけている。	自身の行動選択、計画、活動を自己評価し、自身への理解を深めるとともに、ルールやマナー、安全に関する知識を身につけ、ゲーム等の運営に取り組んでいる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	○体づくり運動 ・ラジオ体操 ・集団行動 ・新体力テスト	整列、方向転換、人員点呼、列の増減、行進等 50m走、持久走、ハンドボール投げ、立ち幅跳び、握力、長座体前屈、反復横跳び、上体起こし	授業への取り組み 提出物 行動観察 実技試験
	5	○球技Ⅰ (選択制) ・バスケットボール ・ソフトボール ・ハンドボール	個人技能 (ハンドリング、パス、ドリブル、シュート等)、 集団技能 (2対1、3対2、3対3、オフense、ディフェンス等)・簡易ゲーム、試合等 個人技能 (送球、投球、捕球、打撃、走塁等) 集団技能 (シートバッティング、シートノック)・試合等 個人技能 (パス、ドリブル、シュート等) 集団技能 (3対2、3対3、オフense、ディフェンス等)、試合等	
	6	○球技Ⅰ (選択制) ・バスケットボール ・ソフトボール ・ハンドボール	個人技能 (ハンドリング、パス、ドリブル、シュート等)、 集団技能 (2対1、3対2、3対3、オフense、ディフェンス等)・簡易ゲーム、試合等 個人技能 (送球、投球、捕球、打撃、走塁等) 集団技能 (シートバッティング、シートノック)・試合等 個人技能 (パス、ドリブル、シュート等) 集団技能 (3対2、3対3、オフense、ディフェンス等)、試合等	

	7	○球技Ⅰ（選択制） ・バスケットボール ・ソフトボール ・ハンドボール	個人技能（ハンドリング、パス、ドリブル、シュート等）、 集団技能（2対1、3対2、3対3、オフENSE、ディフェンス等）・簡易ゲーム、試合等 個人技能（送球、投球、捕球、打撃、走塁等） 集団技能（シートバッティング、シートノック）・試合等 個人技能（パス、ドリブル、シュート等） 集団技能（3対2、3対3、オフENSE、ディフェンス等）、試合等	
2	9	○球技Ⅱ（選択制） ・バレーボール ・ソフトテニス ・卓球	個人技能（パス、サービス、スパイク、レシーブ等） 集団技能（三段攻撃）・簡易ゲーム・試合等 個人技能（ストローク、ボレー、サービス、スマッシュ等）、ダブルスのコンビネーション・簡易ゲーム・試合等 個人技能（サービス、ストローク、スマッシュ等） ダブルスのコンビネーション・シングルス・試合等	授業への取り組み 提出物 行動観察 実技試験 小テスト
	10	○球技Ⅱ（選択制） ・バレーボール ・ソフトテニス ・卓球	個人技能（パス、サービス、スパイク、レシーブ等） 集団技能（三段攻撃）・簡易ゲーム・試合等 個人技能（ストローク、ボレー、サービス、スマッシュ等）、ダブルスのコンビネーション・簡易ゲーム・試合等 個人技能（サービス、ストローク、スマッシュ等） ダブルスのコンビネーション・シングルス・試合等	
	11	○球技Ⅱ（選択制） ・バレーボール ・ソフトテニス ・卓球 ○体育理論 豊かなスポーツライフの設計 ①生涯スポーツの見方・考え方 ②ライフスタイルに応じたスポーツ ③日本のスポーツ振興 ④スポーツと環境	個人技能（パス、サービス、スパイク、レシーブ等） 集団技能（三段攻撃）・簡易ゲーム・試合等 個人技能（ストローク、ボレー、サービス、スマッシュ等）、ダブルスのコンビネーション・簡易ゲーム・試合等 個人技能（サービス、ストローク、スマッシュ等） ダブルスのコンビネーション・シングルス・試合等 社会の変化とスポーツの役割 ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方 いろいろなスポーツライフスタイル 豊かなスポーツライフの設計 日本のスポーツ振興の歩み 地域とスポーツクラブ スポーツと環境問題 これからのスポーツと環境保護 ※体育理論は天候等に応じ適宜実施	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	4	高校3年1組～11組 (総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『LANDMARK English Communication Ⅲ』(啓林館)	『システム英単語』(Z会), 『Hyper listening Pre-Advanced』(桐原書店), 『英文速読ドリル10minutes Level 2』(Z会), 『Front Runner 2』(数研出版)

1. 学習の目標

英語で書かれている文章を速く読み、内容を正確に理解する。また論理的に文章の構成を考える力を身につけ、このことにより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。音読活動により、単語や文法知識の定着、速読、「聞く・話す・読む・書く」といった4技能を高める。様々な分野の英文を読むことにより視野を広げ語彙力も増やす。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
言語活動に積極的に参加し、英語を通して様々な文化を理解している。	文章の内容を構造的に理解し自分の考えを論理的に表現している。	多岐にわたる分野の英文を読み聴くことによって語法・表現法を体得している。	英文の背景にある文化の違いや価値観、また歴史なども理解している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	模擬問題集 LANDMARK	基礎学力到達度テスト対策 Lesson 1 Caffeine: The World's Favorite Drug	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物等
	5	LANDMARK Hyper Listening 英文速読ドリル Front Runner	Lesson 2 Blood Is Blood Lesson 3 Australia and its Creatures Lesson 5 Bilingual Effects in the Brain Lesson 1 - 8 Lesson 1 - 8 Lesson 1 - 3	
	6	LANDMARK Hyper Listening 英文速読ドリル Front Runner	Lesson 6 Communication without Words Lesson 7 Political Correctness Lesson 9 - 12 Lesson 9 - 12 Lesson 4 - 7	
	7	LANDMARK Hyper Listening 英文速読ドリル Front Runner	Lesson 8 Animal Math Lesson 10 Extinction of Languages Lesson 13 - 16 Lesson 13 - 16 Lesson 8 - 10	
2	9	LANDMARK	Lesson 11 Learning a First Culture Lesson 12 Light Pollution	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物等
	10	Hyper Listening 英文速読ドリル	Lesson 16 - 20 Lesson 16 - 25	
	11	Front Runner	Lesson 11 - 15	

※『英文速読ドリル10minutes Level 2』と『Front Runner 2』は、進度によって一部課題等にする場合がある。

※上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	5	高校3年12組 (文系特別進学クラス) 高校3年13組 (理系特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『LANDMARK』(KEIRINKAN)	『OVER ALL 5 英語総合問題集』(Z-KAI), 『英文速読ドリル10 minutes Level 3』(Z-KAI), 『共通テスト10分リスニングプレノート』(数研出版), 『Cutting Edge Blue』(エミル出版)

1. 学習の目標

英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えを的確に理解する能力を習得する。また、共通テストに向けて英文を速読(200語/1分が目安)し、論理的に文章の構成を考える総合的な力を身につけることを目標とする。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
積極的な言語活動に関心を持ち、英語を通して様々な世界状況を理解しようとしている。	文章の内容を構造的に理解し効率よく的確に内容を把握している。	多岐にわたる分野の英文を読んだり聴いたりすることで、語法・表現法を習得している。	英文の背景にある文化や価値観の違いや歴史などを把握し、未来に対して考察している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	オリエンテーション LANDMARK 英文速読ドリル	授業の進め方・家庭学習の方法 教科書や問題集への取り組み方の説明 Lesson 1 Caffeine: The World's Favorite Drug Lesson 2 Blood is Blood(当時の黒人差別の実態) Lesson 3 Lesson Australia and its Creatures (オーストラリアの生態系) 1～10	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	5	Land Mark Over All 5 共通テスト10分リスニングプレノート 英文速読ドリル	Lesson 4 The \$100,000Salt and Pepper Shaker(物語) Lesson 5 Bilingual Effects in the Brain Unit 1～5 (課題確認) Unit 6～9 「読解力」「記述力」「速読力」のための演習をする) パート1 第1回から第9回 11～20	
	6	LANDMARK Over All 5 共通テスト10分リスニングプレノート	Lesson 6 Communication without Words(ボディランゲージ) Lesson 7 Political Correctness(差別や偏見のない用語) Lesson 8 Animal Math(動物の数学的な能力) Lesson 9 The Story of My Life (サリバン先生の生き方) Unit 10～12 パート2 第10回～第19回	
	7	LANDMARK Over All 5 共通テスト10分リスニングプレノート 英文速読ドリル	Lesson 10 Extinction of Languages (言語の危機) Unit 13～15 パート2 第20回～第24回 21～25	
2	9	LANDMARK	Lesson 11 Learning a First Culture (子供の社会性) Lesson 12 Light Pollution (人工の光の影響)	授業への取り組み 定期試験 小テスト
	10	Cutting Edge Blue 共通テスト10分リスニングプレノート	Chapter 1～16 Navi Book を利用しながら、語彙の定着を図り、多くの英文を読み進め、読解力や要約力をつけることを図ろうとする。 模擬テスト 第1回～第2回	

※ 進度によって内容を変更することがあります。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	4	高校3年14組(文理特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『LANDMARK』(KEIRINKAN)	『OVER ALL 5 英語総合問題集』(Z-KAI), 『共通テスト10分リスニングプレノート』(数研出版), 『題別英単語リンガメタリカ』(Z-KAI), 『Cutting Edge Blue』(エミル出版)

1. 学習の目標

国公立大学入学試験と共通テストに向けて英文を速読(200語/1分が目安)し、論理的に文章の構成を考える総合的な力を身につけることを目標としての演習をする。また、時代の背景に即した様々な分野の英文を通して、未知の単語の意味を想定する力をつけ、物事を深く考える能力を習得する。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
言語活動に関心を持ち、英語を通して様々な世界状況を理解しようとしている。	文章の内容を構造的に理解し効率よく的確に内容を把握している。	多岐にわたる分野の英文を読み聴くことによって語法・表現法を習得している。	英文の背景にある文化や価値観の違いや歴史などを把握し、未来に対して考察している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	オリエンテーション LANDMARK	授業の進め方・家庭学習の方法 教科書や問題集への取り組み方の説明 Lesson 1 Caffeine: The World's Favorite Drug Lesson 2 Blood is Blood(当時の黒人差別の実態) Lesson 3 Lesson Australia and its Creatures (オーストラリアの生態系)	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	5	LANDMARK Over All 5 リンガメタリカ 共通テスト10分リスニングプレノート	Lesson 4 The \$100,000Salt and Pepper Shaker(物語) Lesson 5 Bilingual Effects in the Brain Unit 1～5 (課題確認) Unit 6～9 「読解力」「記述力」「速読力」のための演習をする 本文の理解と単語の習得 第1章～第5章 パート1 第1回～第9回	
	6	LANDMARK Over All 5 リンガメタリカ 共通テスト10分リスニングプレノート	Lesson 6 Communication without Words(ボディランゲージ) Lesson 7 Political Correctness(差別や偏見のない用語) Lesson 8 Animal Math(動物の数学的な能力) Lesson 9 The Story of My Life (サリバン先生の生き方) Unit 10～12 本文の理解と単語の習得 第6章～第9章 パート2 第10回～第19回	
2	9	LANDMARK	Lesson 11 Learning a First Culture (子供の社会性) Lesson 12 Light Pollution (人工の光の影響)	定期試験 小テスト 提出物
	10	Cutting Edge Blue リンガメタリカ 共通テスト10分リスニングプレノート	Chapter 1～10 本文の理解と単語の習得 第10章～第11章 模擬テスト 第1回～第2回	

※ 進度によって内容を変更することがあります。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	英語表現Ⅱ	4	高校3年1組～11組 (総合進学クラス)

使用テキスト	副教材
『Workbook for Practice シニアコース』(数研出版), 『Reading Express Book 4』(Z会)	『DUALSCOPE 総合英語』(数研出版), 『英文法・語法問題 GRAMMAR MASTER』(Z会)

1. 学習の目標

大学入試に対応できる実戦的な総合英語力を身につける。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
文法・語法を積極的に習得している。英語を理解することに関心を持ち、言語活動を通してコミュニケーションを図っている。	文法・語法力を駆使し、幅広い話題について、情報や考えなど、自分が伝えたいことを英語で表現している。	文法・語法力を使って、英語を聞き、英文を読み、情報や考えなど相手が伝えようとするものを整理し、内容を理解している。	幅広い話題に関する英語学習を通して、言語とその運用の知識を身につけ、背景の文化、習慣、歴史、考え方などを理解している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	基礎学力到達度テスト対策 Workbook for Practice Reading Express Book 4	基礎学力到達度テスト模擬問題集 Lesson 1～2 1～2	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物等
	5	Workbook for Practice Reading Express Book 4	Lesson 3～7 3～6	
	6	Workbook for Practice Reading Express Book 4	Lesson 8～13 7～10	
	7	Workbook for Practice Reading Express Book 4	Lesson 14～17 11～14	
2	9	基礎学力到達度テスト対策 Workbook for Practice Reading Express Book 4	基礎学力到達度テスト過去問等・プリント等 Lesson 17～18 21～22	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物等
	10	Workbook for Practice Reading Express Book 4	Lesson 19～20 演習問題 23～25	
	11	プリント等	センター試験・一般受験対策・英語の基礎知識	

- ※ GRAMMAR MASTER は自主学習や長期休暇中の課題としても使用し、定期試験の範囲に入れることもある。
- ※ DUALSCOPE 総合英語 は自主学習や課題として使用し、定期試験や小テストの範囲に入れることもある。
- ※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	英語表現Ⅱ	4	高校3年12組～14組 (特別進学クラス)

使用教科書	副教材
	『全演習 発展 英文法・語法問題1100』(いっずな書店), 『入試必携英作文 Write to the Point』(数研出版)

1. 学習の目標

大学入試に対応できる実戦的な総合英語力を身につける。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
文法・語法を積極的に習得している。英語を理解することに関心を持ち、言語活動を通してコミュニケーションを図っている。	文法・語法力を駆使し、幅広い話題について、情報や考えなど、自分が伝えたいことを英語で表現している。	文法・語法力を使って、英語を聞き、英文を読み、情報や考えなど相手が伝えようとすることを整理し、内容を理解している。	幅広い話題に関する英語学習を通して、言語とその運用の知識を身につけ、背景の文化、習慣、歴史、考え方などを理解している。

3. 学習内容および学習計画等

学期	月	学習教材	単元・学習項目	評価方法
1	4	英文法・語法問題1100 入試必携英作文	Lesson 1 動詞の語法 Lesson 2 時制 Lesson 3 態 1. 主語の決定(1) 2. 主語の決定(2)	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	5	英文法・語法問題1100 英作文 Write to the Point	Lesson 4 助動詞 Lesson 5 仮定法 Lesson 6 不定詞 3. 目的の表現 4. 理由の表現	
	6	英文法・語法問題1100 入試必携英作文	Lesson 7 分詞 Lesson 8 動名詞 Lesson 9 動詞を含むイディオム Lesson 10 形容詞の語法 Lesson 11 副詞の語法 5. 時制(1) 6. 時制(2) 7. 動詞の語法 8. 関係詞	
	7	英文法・語法問題1100 入試必携英作文	Lesson 12 比較 9. 時間の表現	
2	9	英文法・語法問題1100 入試必携英作文	Lesson 13 形容詞・副詞を含むイディオム Lesson 14 冠詞と名詞の語法 Lesson 15 代名詞の語法 Lesson 16 名詞を含むイディオム Lesson 17 関係詞の用法 Lesson 18 接続詞の用法 10. 数字の表現 11. 仮定・条件の基本 12. 仮定・条件の応用 13. 比較の基本 14. 比較の応用	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物

10	英文法・語法問題 1100 入試必携英作文	Lesson 19 前置詞と群前置詞の用法 Lesson 20 主語と動詞の一致 Lesson 21 疑問文の語順 Lesson 22 否定・省略・協調 Lesson 23 時制の一致と話法 Lesson 24 会話表現 15. 譲歩の表現 16. 重要表現（1） 17. 重要表現（2）	
11	英文法・語法問題 1100 入試必携英作文	Lesson 25 共通語補充 18. Aは・・・だ	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
情報	情報の科学	2	高校3学年 全クラス

使用教科書	副教材
『情報の科学』(東京書籍)	『情報の科学 学習ノート』(東京書籍)

1. 学習の目標

情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得し、情報に関する科学的な見方や考え方を身につけるとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解し、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を習得する。情報機器等を活用して情報に関する科学的思考力・判断力等を学び、社会の情報化の進展に主体的に寄与することができる能力・態度を習得する。情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用する。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
情報社会の発展に役立つことを自ら進んで行い、よりよい情報社会にするために貢献できる能力・態度を身につけている。	情報と情報技術に関する基礎的な知識と技能の習得を通して問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を身につけている。	情報技術の面から情報社会の特性や在り方を考え、ルール、マナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識と技能を身につけている。	情報技術の役割や影響を理解し、情報と情報技術に関する基礎的な知識と技能を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 解決方法の考察 コンピュータの仕組みと働き 情報のデジタル化 数値と文字の表現	教科情報とは何かの説明、教科書重要項目の説明、文章作成ソフトウェア (Google ドキュメント) の利用説明、レポート作成の準備、学習ノートを利用した復習、タイピング。	授業への取り組み 提出物 小テスト 期末試験
	5	問題解決のプロセス 情報の分析 解決方法の選択 問題のモデル化	教科書の重要項目の説明、表計算ソフトウェア (Google スプレッドシート) の利用説明、発想法による解決方法の考察、レポート作成、学習ノートを利用した復習。	
	6	画像と音の表現 デジタルの特徴 新しい技術や仕組み コンピュータの構成 処理の仕組み	教科書の重要項目の説明、レポートの作成及び提出。	
	7	情報モラルとマナー	教科書の重要項目の説明、学習ノートを利用した復習。	
2	9	アルゴリズム 暮らしの中の情報化 社会の情報化と生活の変化 操作性の向上と情報技術 セキュリティの重要性	教科書の重要事項の説明、表計算ソフトウェアを利用した関数の利用説明、フローチャートの説明、アルゴリズムの説明、学習ノート利用した復習。	授業への取り組み 提出物 小テスト 学年末試験

	情報通信ネットワークの構成 インターネットの利用		
10	プログラム 安全を脅かす要因と対策 問題解決と情報の評価 情報社会の安全とルール 新たなコミュニティ	教科書の重要事項の説明, プログラムの説明, アルゴリズムを利用してのプログラムの作成, 学習ノートを利用した復習。	
11	プログラム	アルゴリズムを利用したプログラムの応用作成。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
総合的な探究の時間		1	高校3学年 全クラス

使用教科書	副教材
なし	Classi「ポートフォリオ」機能

1. 学習の目標

<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	進路研究 (通年)	他大学・各種学校説明会 日大学部説明会・受験ガイダンス, 三者面談, 実力テスト・模擬試験・共通テストプレテスト等を利用して, 進路研究を行う。(16時間)	授業への取り組み ポートフォリオ入力
	5			
	6	日藤祭	クラスの催しやクラブ活動の発表・展示等を準備日も含め, 3日間にかけて行う。(9時間)	
	7	水泳球技大会	本校プール・体育館等にて, 中学・高校全体の水泳球技大会を行う。(4時間)	
2	9			授業への取り組み ポートフォリオ入力
	10			
	11	体育祭	本校NFグラウンドにて, 中学・高校全体の体育祭を行う。(6時間)	
	12			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。